

目 次

1. 陰陽論	相對的認識法	5
	相互資生	6
	相互對立	7
2. 五行	五行歸類	8
	相生關係	11
	相剋關係	12
3. 八綱	陰 陽	17
	表 裏	19
	寒 熱	20
	虛 實	22
4. 傷寒論 (六經)	太陽病	26
	少陽病	28
	陽明病	30
	太陰病	32
	少陰病	33
	厥陰病	34
5. 病因	外因(風寒暑濕燥火)	39
	內因(怒喜思憂恐悲驚)	46
	不內外因 (飲食, 勞倦, 房勞, 外傷)	49
6. 氣血水	氣	53
	血	58
	津液	60
7. 五臟六腑	肝, 胆	63
	心, 小腸	66
	脾, 胃	69
	肺, 大腸	72
	腎, 膀胱	74
	命門 三焦	76 77

8. 四診

望診	81
·舌	87
·顏	91
·眼	94
·鼻	96
·口唇	98
·耳	99
·齒	101
·頭	102
·手足	104
·區間	108
·腰	109
·腹	110
·胸脇	112
·下腹	113
聞診, 問診	117
·音(声)	118
·汗	123
·大便	125
·小便	129
·痰涎	131
·出血	"
·惡寒	132
·熱	133
·めまい	135
·口渴	136
·食欲	"
·味	137
·神經症	138
·不眠	140
·婦人科	142
·小兒科	146
切診	147
·脈	"

9. 藥物	四氣五味	149
	升降浮沉	"
10. 方劑	七情	151
	君臣佐使	152
	劑形	153
	量	155
	飲方	156
	七方	159
	醫方集解	160
11. 治則	本標	163

①

NEW STANDARD NOTE BOOK

MADE OF FINEST PAPER PREPARED IN TOKYO

漢方基礎講座

S.51.5.6 (1回) ~ S.51.9.16 (10回)
1976年

梁哲周先生 (雞林東洋医学院)

日立市鮎川町6-4
大曾根葉局

大曾根清朗

B5
406
糸田

5/6 (1回)

三無主義.

- ・ 年齢
- ・ 経歴
- ・ 身分

漢

2000年考.

漢方医学 → 日本に適した医学.

東医学 → 鮮

中医学 → 中国

温病学派

葉天士.

舌診

1. 葛根湯. 三黄泻心湯. 小柴胡湯の薬味と目標

2. 傷寒論の著者と成立年代. → 張仲景 BC 200.

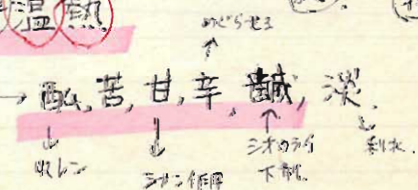
3. 勿誤方函の " → 浅田格景伯.

4. 四診とは? → 望 聞 問 切

5. 四気五味とは 寒 涼 平 温 熱

6. 病気の三大病因 → 酸, 苦, 甘, 辛, 鹹, 淡.

外. 内.



本草学.

↓
天然物利用学.

7. 三大治法とは.

汗, 吐, 下

8. 引経報使とは.

修治.

9. 感冒をひき, 発熱, 悪風, 自汗, 体が重い, 微口渴

10. 嘔と吐のちがい

(嘔 → 有声無物)

11. 自汗と盗汗のちがい

(吐 → 有物無声)

12. 謔語と鄭声

① 謔語 (せん)

② 鄭声 (てい)

→ うわごと.

→ つじつまが合う → は, きりきこえまい, よくわからない

4つの症状

主, 客, ときどき, あてはふらぬもの

薬の出し方

・ 方証相対 (基本)

・ 東洋医学概説.

・ 漢方医学の基礎と診療 西山英雄著

生理
思想, 病理, 診断, 薬理, 処方

● 天人合一

大宇宙 ↔ 小宇宙.

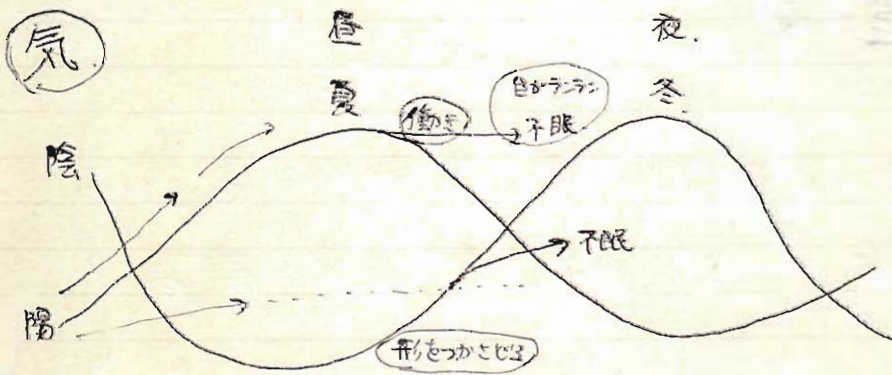
↓
自然
春夏秋冬.

春	夏	土用	秋	冬
生	長	化	收	藏

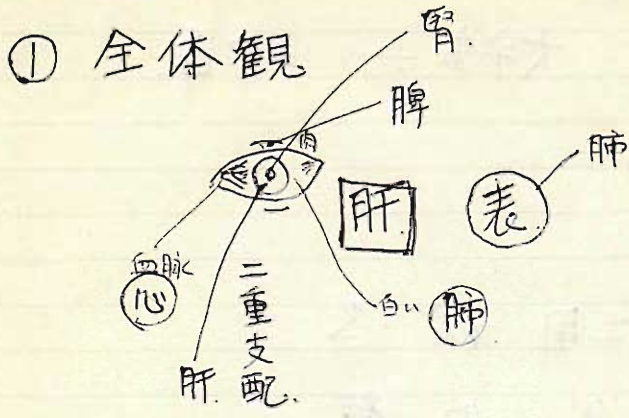
—————→

対応の失敗 → 病氣.

不服水土.



補陽剤



5/20(2回)

陰陽論

① 相対的認識法 …… 相対的

まわりの環境と比べる

{	気 → 陽	{	肝 → 陰
	血 → 陰		胆 → 陽

光線の当る所 → 陽

色の白い所 → 陰

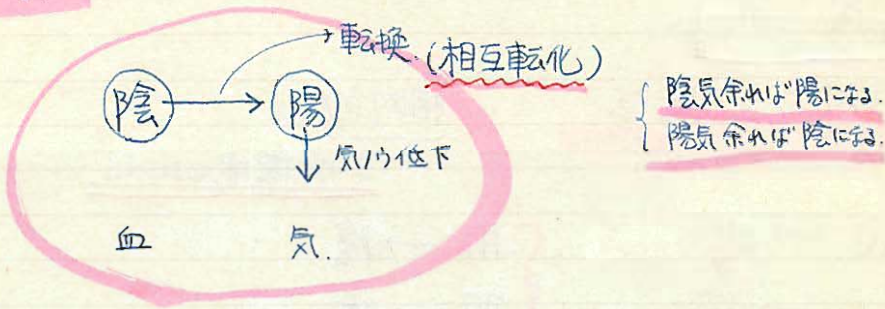


女 多血少気

人 → 虚, 実両面を持つ

男 多気少血

② 相互資生 …… お互い助け合う関係



大出血 血虚 → 補血 → 四物湯
 X
 異物反応

< 戦場に薬を送るよ! >

吐血, 咯血 → 胃に血熱 → 放冷して与える。

生理的ル+に与える

↓
 補気剤を与える。

ここで始めて

四物湯

← 小の状態

< 独参湯 >

◦ 補気剤に補血剤が少々入る。

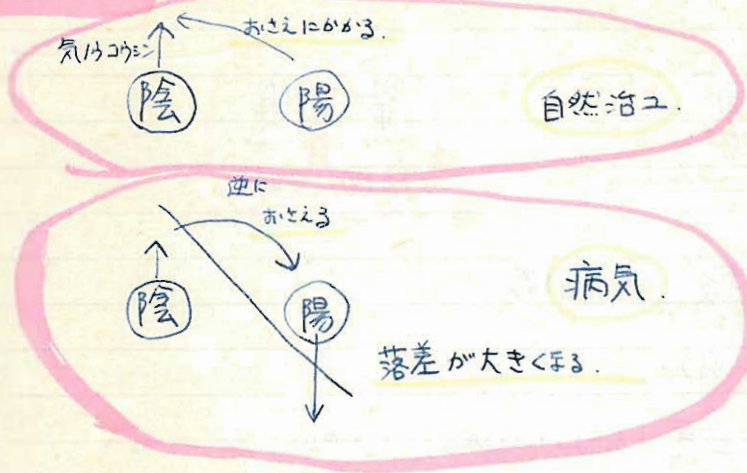
◦ 補血剤に補気剤が少々入る。

汗イシウ → ショクヤクが入るためこの理由。

表が虚してるが、裏も多少虚している。

— 自然治愈 —

③ 相互対立



②, ③ は夫婦関係に似ている。

cf).

たい	よう
体	用
實際	機能
↓	↓
陰	陽

肝 → 作

心気 → 用

五行

① 五行 帰類

量
陰陽

質
五行

類似分類 → 象徴

理由 (性質)

木 → 生長する. 上にのびる, のびやか

火 → 熱い. いきおいが強い. 燥す.

土 → 安定 (基ばん), 中立, カンウ

金 → 金属, かたいけれど変化する. (あるじょうきょうで)

水 → よじむ. 冷い.

物を五行に当てはめる. → 五臓の色体表.

陰陽関係

兄弟関係

陰

陽

肝

胆

兄

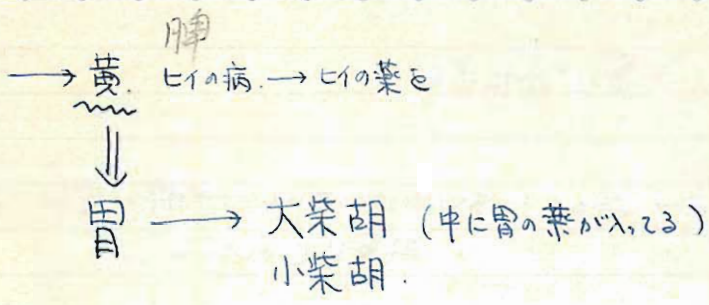
弟

→ 青

肝胆の強い人.

いや青 → 病氣

例) 萎病
萎病

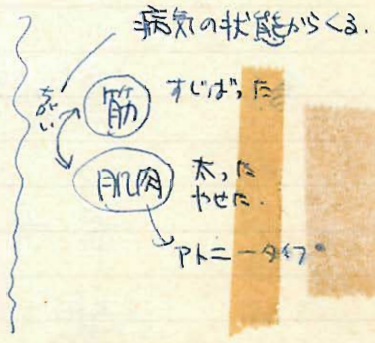


- 酸 → 肝に入る 多すぎ、少すぎ → 肝病.
- 苦 → 心に入る
- 甘 → 脾(胃腸)に入る.
- 辛 → 肺 "
- 鹹 → 腎 "

修治 → 味を変えて、なおしい場所にもってくる。
(引経) ↓ ある場所に薬を引っぱり

- 色でも同じ。
- 青 → 肝に入る
 - 赤 → 心 "
 - 黄 → 脾 "
 - 白 → 肺 "
 - 黒 → 腎 "

- 主
- 筋 → 肝に入る。柴胡剤。
 - 血脉 → 心 "
 - 肌肉 → 脾 "
 - 皮 → 肺 "
 - 骨 → 腎 "



支.

爪 → 筋が外に出た

毛

乳 → 器かん. あらばいの小さい人 → 脾が虚している.
血変じて乳となる.

脾
血
（シクンシクウ
シモツク）

内分泌 おこす。カクコシクウ
刺激する ↓

毛穴を広げる。

息 → 肺

髪 → (老) とぬける。

根

目 → 肝

目 → 肝
本社と支店の関係 胆 → 小会社。

舌 →

唇

鼻

耳

香

臊 あぶらぎしん 魚 香 腥 腐

春 → 目の病気

土用 (湿) → 食中毒 脾

悪 風物盛燥寒

液 涙汗涎涕唾

感情 怒 → 肝キノウ抗^毒達 呼笑歌哭呻

○ しんがう怒る 肝病

^毒 ○ 環境により怒 → 肝をやる

思 → 食欲欠る

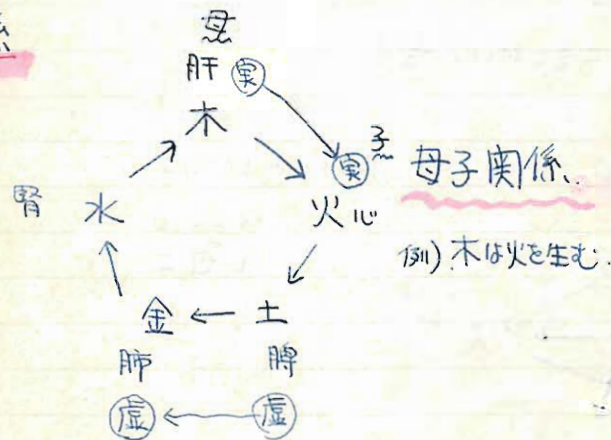
悲^心

畜 鶏羊牛馬豚

変 握 → ひきつけ → 肝病

板 87596

② 相生関係



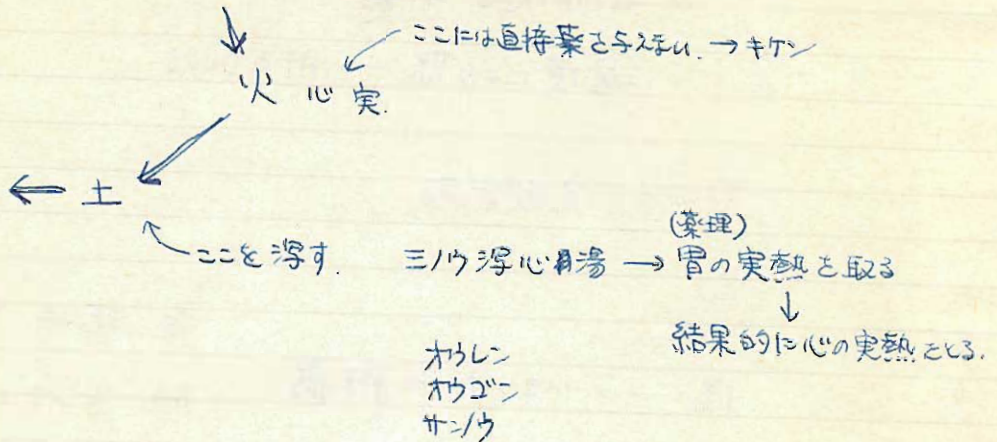
治療

虚すれば、その母を補う

肺が虚すれば 脾の虚を補う薬を与える → 人蔘湯

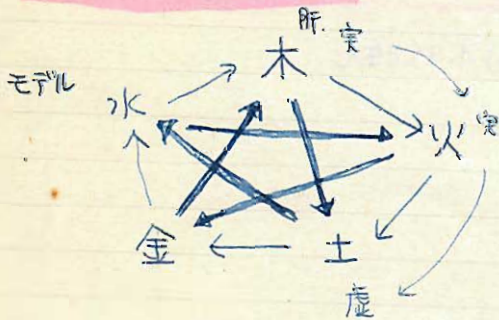
自汗 → 皮が虚 → 肺が虚

実すれば、その子を浮す。



- ・ 病気の進行もこの関係で進む。
- ・ 治療もこれにもとずいて治す。

③ 相剋関係 相手をあさつける。



- ・ 木剋土
- ・ 土剋水
- ・ . . .

肝キウ抗進 → 土が虚す。 (木剋土)

- ・ 加味道散
- ・ 抑肝扶脾ト
- ・ 小柴胡

病気の進行を止めるのに役立つ。

次に起こる所を予防して治しておく。

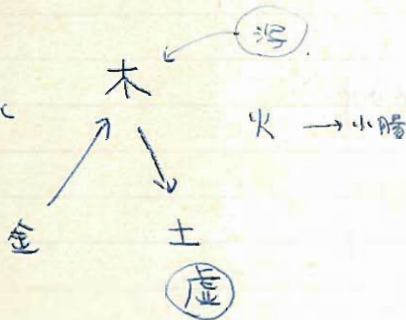
予後判定 → どこくらいでその病気がなくなるか

- ↓
- 相生
- 相剋

例)

治療

腎臓



心に虚は腎に実を

土が虚している人の治療 → 木を浮してやる。

(畝りに行こう)

ただ直接やるとはダメ。 → 木に病気が来たら

少しだけおこそう。

木(肝)が実していれば、金を補う。

以上の理由で実の薬に補剤が入っていたりする。

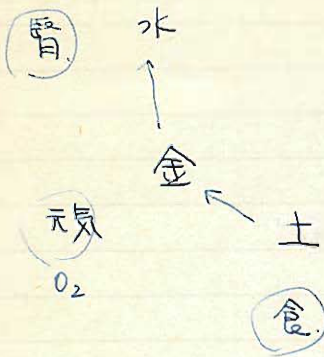
心包絡

心包絡

— (心の代行
防衛)

心虚とは心包絡の虚である。(三黄湯心湯)

心は虚お事はない。



三大エネルギー
腎虚はむずかしい。

婦人 → 肝, 脾 (あまり子宮は考えない.)

↓
(血) 血虚
瘀血

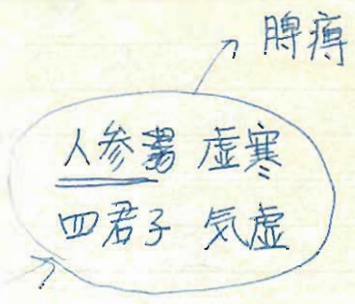
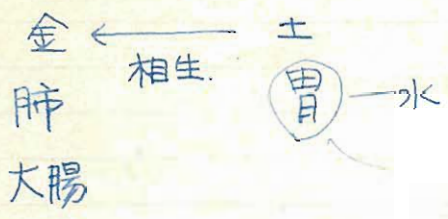
予後良 → 相生関係
予後不良 → 相対関係

肝で顔が黄白
" " 赤黒

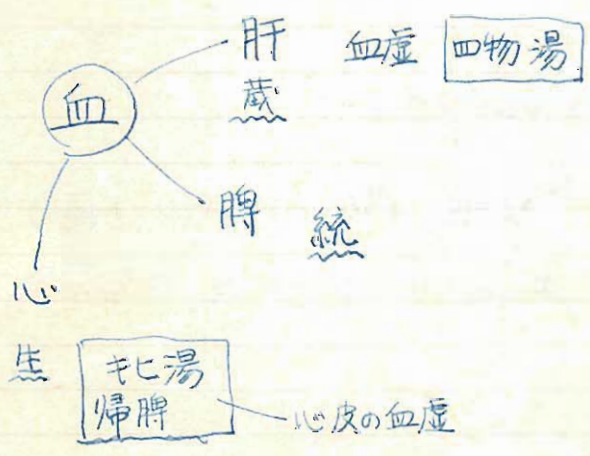
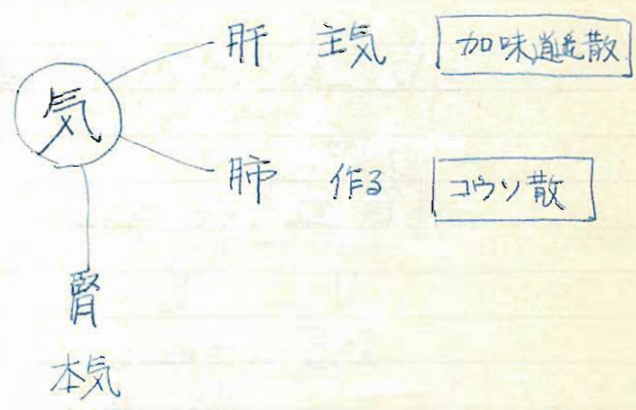
ヘーイ散 ← 食後に山
食後トク.
食後ゼンツク

6/3 (3回)

傷寒表不解 心下有水気



気うつ (流体 固体)





怒らせる。木射土で土を虚させる。

気がとどこあるから実

。自覚症状がなければ漢方で打っ手はない。

西洋医学

貧血 \neq 血虚
レベルでない

↓
 気虚
 ・四君子湯
 ・八珍湯

尿タンパク \rightarrow シイ湯加オウギ
を取る

↓
 火泄 (熱のはなはにしい下痢)

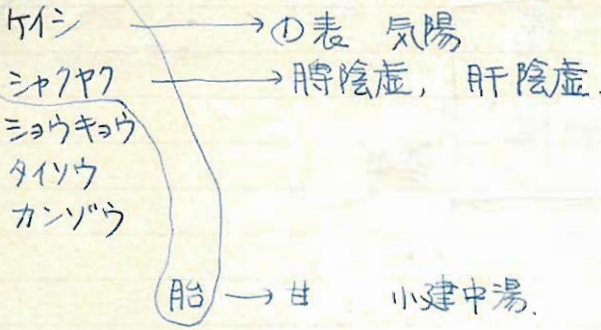
五苓散の竹シのじやまる時 \rightarrow 四苓散

由アト...
30-40分でよく12分
 強熱

1-4-2
7-2-2解毒 他格
 Dampness (12分) 類

甘草かき湯
人参湯
茯苓湯

辛湯.



3

ハツ コウ
八 綱

(分類の項目.)



ソウ コウ
總 綱

病 位

邪の性質

邪と正気のキョウ関係.

証

→ パターン認識 (東洋医学)

① 陰陽

傷寒論

急性熱性疾患

(書)

金キ要略

1冊のみ

雑病 → 慢性疾患

マオウト, ケイシ

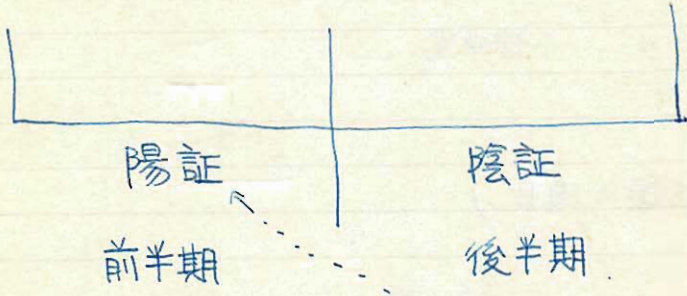
表寒証

→ 体をあたためる.

病	発熱悪寒	——	陽
	無熱悪寒	——	陰

(発熱…… 本人の自覚熱覚、
体温計の熱ではない)

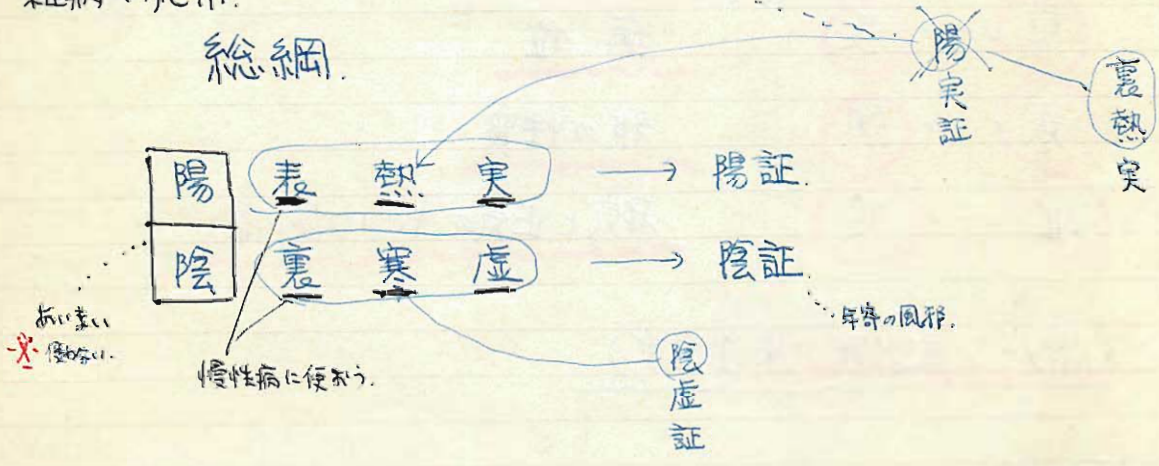
基本.



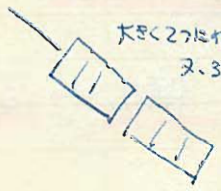
表証 - 陽病
裏証 - 陰病

雑病への応用.

総綱.



・ 傷寒



大抵2つに分け、
又、3つに分け.

時間的 factor 分類

・ 雑病

空間的 factor 分類

これらの
約束

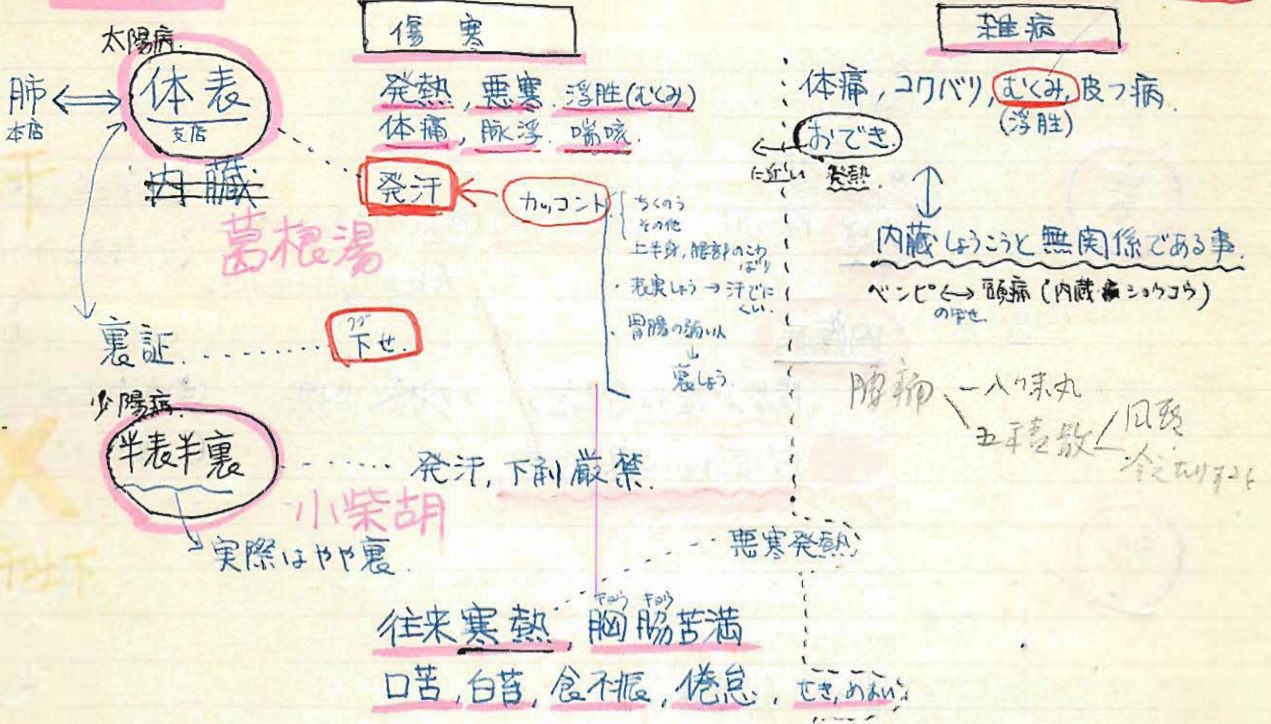
(
陰虚証 → 陰気が虚している
陽実証 → 陽気が実している)

ミミ
 { かんりゅう
 けつろ
 おけり



① 裏 ジンマシン → 下剤
 ② 表 → コウリ散

② 表裏 病位



裏内臓
 口苦

下痢, 胃病

上のものを以外, 下痢, 胃病 etc

五臓六腑全部

便秘の時と頭痛
 生理頭痛
 はモス頭痛 → 五苓散 (五苓湯, 中気利水)

附加分を気に
 つける事

おでき — 防風通サウ散 — 表証
 表の発汗と裏の下剤の組合せ

腰痛 — (ハ味丸 裏)
 (ゴシヤウ散 表) (風に当る)
 ドウカンテイノウ

シヨウゼイリョウノウ (表裏)

マブツト... 正しくは... (表) をから (裏) の薬を

炎症キ熱

- ・ホウコウ炎
- ・中耳炎 等

③ 寒熱

自覚、外界の温度差で^{増長}ジチウする。

どうして起こるか、
(理由)

正気(抵抗力)

↓
正気

寒邪

外感

陰の邪 → 正気をこ奪う (陽気をこ奪う) → 虚邪

↓
活動力、体をあてたくなる。

① 寒を追いつけ

② 陽気を補う

附3

内傷病

陽気が虚邪(陽虚) → 内寒

① 陽気を補う

② 寒を追いつけ

陽虚すれば寒を生ず

温熱

夏の熱

熱

涼寒

暑邪 (日暑病)

陽邪 → 陰気を破る。 熱とせいつつ補陰とす。

(参考)

風寒 →

① 熱

陽明

{ 自虚 承気

神液不足 (口渴)

増液承気ト。

陰気が虚邪(内臓病)

① 補陰

② 熱をこ奪う

陰虚すれば熱を生ず

(虚熱)

燥燥

..... あばれる、落ち着きがない

運動会のあき → 虚熱 (小建中湯)

附子 → 長期連用は少く、薬が鋭い。

あつたつある。

← ○陽気さかん
↳ 内熱 (実熱) 四物ト

鹿茸 (カシノ) 麻黄

ひやあつたつある。

○陰気がさかんになる (陰気盛)
↳ 内寒 (虚寒)

三の浮心ト

— 人参湯 —

- 脾胃の寒邪
- 内傷病 (脾胃の陽気虚)

どちらも脾胃の虚寒

両方に使える。

カンリウ
カンキョウ が主役。

● 内傷なければ外感なし。

④ 虚実

虚

補

正気↓

正気衰えるを虚

内感

慢性病

傷寒

→ 症状で見る.

→ ケキレツ

補



→ 正気が虚。(陰病気) ← だから外邪が入る.

● ~~外邪が入り易い~~

実

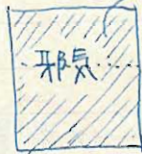
泻

邪気↑

邪気盛なるを実

外感

急性病



↓ 泻

→ 外邪が入る → 正気と戦う.

正気が虚している為に外邪が入り易い.

おこえんじやう

虚証

かえかん

実証

じこで見ると

邪で見ると ● 邪が盛 → 陽病気 → ケキレツ (戦いがきびしい) 強い (悪感, 発熱, 頭痛)

● 正気が虚 → 陰病気 → 戦いがほげしくなり

● 正気はそもそも虚ではないから外邪が強い.

実の方へ
体かたへ
虚実を分ける

● 虚中に実あり実中に虚あり

雑病 → 慢性病.

正気の機能低下. (異常に)

正気のキヲ抗進 (異常に) → 邪.

→ 麻黄湯

→ 桂枝湯

6/17 (4回)

陰証 } 傷寒論
陽証 } 金キ要略



木竹 } 木簡
竹簡

🌀 巻いて保存.

巻
かん

今でも本を一卷、二巻と
数える.

宋の時代. → 図書館に命じて教科書できる.

① 宋本

② 咸本 (咸無己)

↓
注解傷寒論

今残っているのは明の時代.

趙開美. (宋本の流れ)

③ モ
金 匱 玉 函 經
キ キョウ オウ ケイ

参考) 櫃

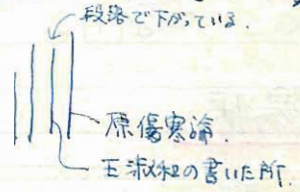
宋の前

西晋の時代 ^{オウ ショウ ワ} 「王叔和」 …… → 宋本へ

- ・ 文章を追加したらしい。
- ・ 傷寒論を現在まで残した。

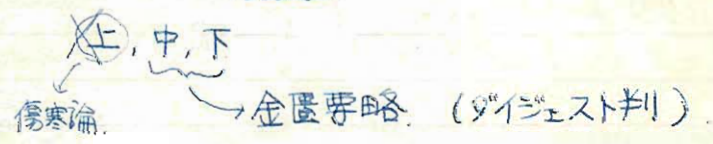
④ コウ ジ ホン 康字本 …… 文章が少い。 (長沢先生の説で、原傷寒論ではなからうが。)

⑤ コウ ヘイ ホン 康平本 (先) …… 原傷寒論 (大塚先生の再発見した本)



宋の時代に 雑病論出てきた。

金匱玉函要略



— 読み方 —

- ・ 漢文の練習を。
- ・ 原文だけを読む。(始め身訓読の所と次に原文を読む)
- ・ 声を出して読む。

傷寒論

..... 時間の factor.

病有発熱悪寒者 発於陽也
無熱悪寒者 発於陰也

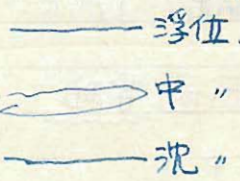
発熱 → 自覚.

大きく3つに別ける. ◀三陰三陽▶

① 太陽病

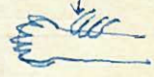
太陽之為病 脉浮 頭項強痛而悪寒

表より時出.



四字連.

強く押 = みる 押さず



→ 浮脈ではない.

浮之骨

平人 (健康人) の脉.

浮脈 脉がういてくる (表)



表に病気がある

温病 → 舌診 (薬局に便利)

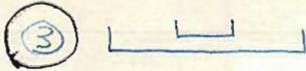
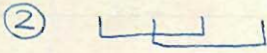
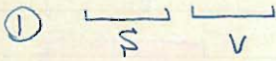
更の読み

寒熱

虚实 → 腹診

S: 主語
V: 述語

頭項強痛



悪寒

→ 広義の悪寒 (さむけ)

追加されるもの

発熱, 体痛 (腰痛, 関節痛)



太陽膀胱系

せーが
口喘咳びせい

太陽病 発熱 汗出 悪風 脈緩者 名為 中風

表虚

太陽病 或已発熱 或未発熱 必悪寒 体痛

表寒

嘔逆 脈陰陽俱緊者 名為 傷寒

表実

太陽病 発熱 而渴 不悪寒者 為 温病

表熱

嘔痛 舌黄 → 赤

清の葉天士 (熱邪の研究 → 温病学)

寒証

寒証

熱証

發熱の常例

8. 心とかが、2. 2とさむくふい
出ると(冷たい風に当たると)さむい

ものどゆめの作用をも、この邪

8. 心とかが、2. 2とさむくふい

寒が少い

裏 (背と心臓)

脈の陰陽

手 陽 陰

→ 中風と対するものに狭義の寒

表が少い

内熱

春~夏

口鼻が乾く 手汗が少い

まとめ

病因		発熱	悪寒	痛	脈	汗
中風	表寒虚	+	悪風	+ 頭痛 <small>CSU.</small>	浮緩	自汗
傷寒	表寒実	++	悪寒	+++ <small>節々の痛サ.</small>	浮緊	無汗 <small>自然に出る汗が 出ない。</small>

② 少陽病

少陽之為病 口苦 咽乾 目眩也

寒 → 熱

〈症状〉

胆系の病気 …… 目眩
口苦

熱になってきた …… 咽乾

半表半裏の熱

頭が<S><S>振
目眩 //

肺	治方
/	桂枝湯 (カクコン湯)
喘咳	麻黄湯 { 小青竜湯 大青龙湯 マキョ マツカシノ

喘家 ... 元々その病氣をもっている人。
(ゼンリク)

五積散
コーソサ 等
ジンソイン } 裏証も出てくる人。
太陽病 + 〇家

柴胡桂枝でにげてはいけない。

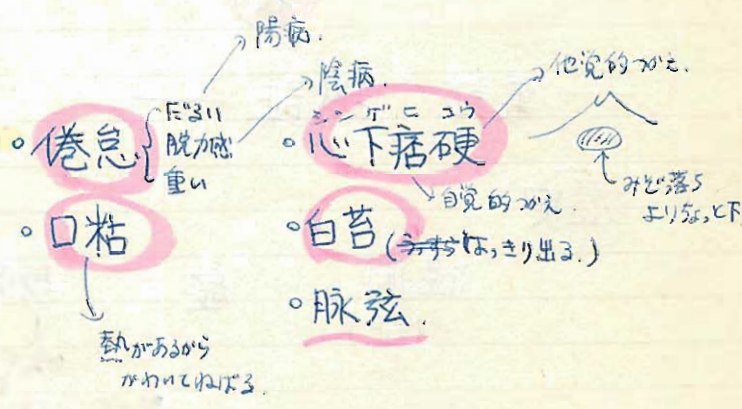
熱型 → 往来寒熱
S. V. マラリア様の熱。
人によっては微熱。
→ 本人のも微熱感。

胸脇苦満 (本来自覚症状)

胆系 → 柴胡劑。

食欲不振

呕吐悪心



基本的治法.

小柴胡湯

さまざまなバリエーションがある.

- 大柴胡湯
- 柴胡加竜骨牡蛎湯
- 柴胡桂枝湯 (表証をかねている)
- 柴胡桂枝乾姜湯



(半夏 浮心) → 知解.
加味

熱がさらにさかんになる.

③ 陽明病

寒 悪寒がない.

陽明之為病 胃家實是也

胃家の実.

足の陽明 → 胃系 (胃そのものが実っていて熱)

裏

— 裏証, 熱証 —

虚実

経病 (証) ... 虚

腑病 (証) ... 実

身熱, 多汗, 口渴, 苔乾燥, 脉洪

潮熱, 手足出汗, 腹満痛, 譫言, 燥

煩燥, 口渴, 黄苔, 脉滑数 or 洪実

便秘 or 下痢

裏熱の特征.

経痛自覚なし. 腹力感なし, 口にはかたさを感じ. 裏証

人蔘 (水気とおまじょう)

治法.

~~白虎湯~~ ——— 白虎湯類 (胃の裏虚熱)
(経証) _{石膏}

~~承気湯~~ ——— 承気湯類 (胃の裏実熱)
(腑証)

経証 → 真夏の症状に似ている。
スイカは天熱の白虎湯。
日照病に使える。

参考)

体によく似るもの

{ 非常に好きか、
非常にきらいか。

7/1 (5回)

夏風邪 → 五苓散 発熱、口渴。 ^{ツマ} 桂枝 → 発汗剤。

自汗
白虎湯

参)

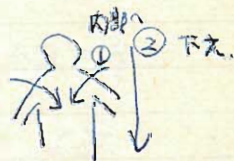
桂麻 → 秋冬に使い
夏春に使用。
(一般論)

○ 温疫病 (2つのプロセス)

① 伝気榮血
浅い 分 " " " 深い

口鼻から入る。(伝染病)

② (三焦)
上焦
中"
下"

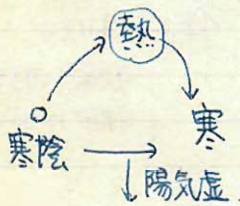


P.55.
P.58.

{ 虚実 → 腹診
寒熱 → 舌診

④ 太陰病

太陰之為病 腹滿而吐 食不下
 自利益甚 時腹自痛 若下之 必胸下結鞭



足の太陰 → 脾臓

陽明病に似ているが下してはいけなし。

裏証, 虚証, 寒証
 (脾)

ネビエ → 直中の太陰病.

- 薬)
- 桂加芍薬 (初期) ... 腹滿.
 - 大黃 (陽明の残存)
 - 四逆湯 (少陰病. 陽氣を補う)
 - 人蔘湯

直中
 直接陰病になって
 しまうもの
 (陽病と通らない)
 ① 邪のかかし方
 ② 元々病氣(腎心の虚)の
 ちる人.

症状) 手足冷, 食欲不振, 薄白苔, 脉弱

発熱 → 軽微 (原則としてない)

⑤ 少陰病

少陰之為病 ^{ガレ} 脉微細 ^{ニシテ} 但欲寐也。
[体トス。] 体トホスレナリ。
want に似ている。助動詞。

虚証
(沈)
→ 裏

脱力感 で 起きる元気がない。

症状) 発熱なし。 はきはだしい悪寒。 手足が冷。
非常に。

陽気がリンショウ

— 裏 虚 寒 —

↓
足の少陰
腎經 (局所的)

薬) 四逆湯 …… シンヨウの虚。 (471-ゼ)

附子湯 ……

真武湯 …… 腎の虚 + 水毒。

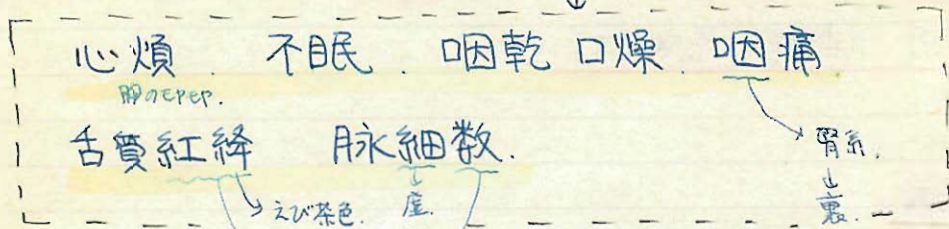
例外 ①

麻黄附子細辛湯 → 発熱, 麻黄
表証をかかえている。

脉沈 (少陰病である)

個別にこの症状が出てくる。

例外 - ②



- 甘草
 - キキョウ
 - オウレンキョウ
 - 芍薬
- 熱証
- 心腎枝
- 腎が虚して心までおぼれている。
- 熱証の処方。

裏の虚熱

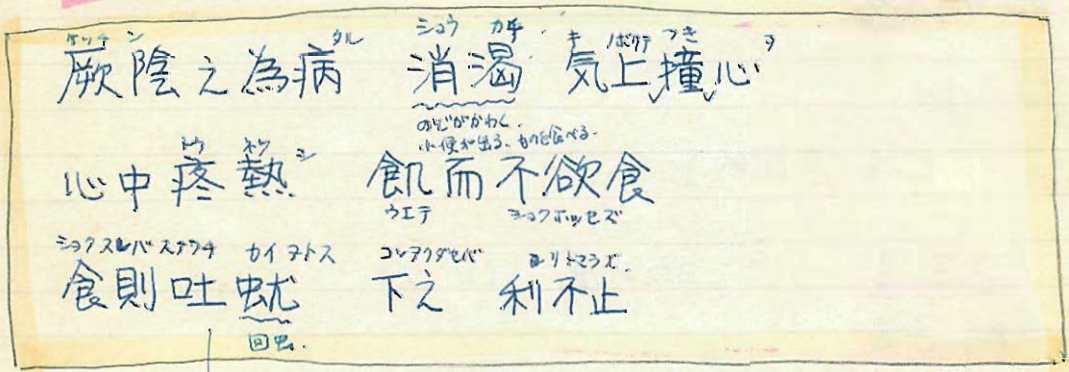
温病で、栄分のアロセス、血分

少陰病の変型 II 型

未整理の分野

⑥ 厥陰病 (末期)

糖尿病類似。



好みはいい嘔吐。(現代)

肝経

ジユ 中, ハンコウコク ショウ
徐中, 反光国照 最後のフンバリ. (死にまぎれ)

寒熱錯雑 (厥陰病)

基本処方はない. (複雑になる).

そのつどに合わせて使用する.

死の寸前.

末期 ---- 附子劑.

合病 太陽 陽明 合病 → 麻黄湯. 一系の薬は使わない.
病は一系. 病気の症状だけが他系に行、ため.
(一系の病が強すぎて)

• 併っている病 (胸滿, 腹滿) 一系に邪

並病 先表後裏. 一系が病んでい、所にさらにもう一系が入、もの.
二系が病んでい、る. 少陽 ← 太陽 ... これを先に治す. 二系に邪 別
→ 浅い所の病を治してから次に深い所の病を治す.

兼病 一つの邪が二系にまがら、い、る. 二系に邪 まがら、い、る
二系の薬を一、れに与える.

例) 柴胡桂枝湯 (陽明病)
大柴胡湯 (柴胡 + 小承氣湯)
↓
太陽病

壞病 上の3つの分類にも入ら、ない、もの.

→ 次ページへ.

臥ガ 蚊コ
龍モ 龍モ

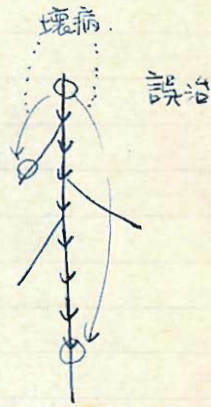
乳中産

太陽病三日 已^{スレニ}発汗 若吐 若下 若^{ウシ}温針

仍不解者 比為壞病 桂枝不中与之也 コレヲアタクザルハ=アタクズ

觀其脉証 知犯何逆 随証治之 standard 各病気の 経過をひかへたもの (誤治による) ショウニシタガッテシル

常須識比 勿令誤也 ツト ニスベカラズコレヲシリ アヤマラシクカレ 助動詞 再読文字



参) マキョーカネキト

ケイシカニヤクヤク

リョウケイジュカント



風邪をこじらせた時 誤治による壞病

カンゾウシャシト

参) 勿誤藥室 (浅田伯彦)

元々病氣を持っている人。(家)

- 変化的になる。
- 治療注意。

- 喘家 …… センソク
- 淋家 …… ぼうこう炎 等。
- 亡血家 …… 産後
- 瘡家 …… 皮膚病を持っている人

発汗剤はダメ。

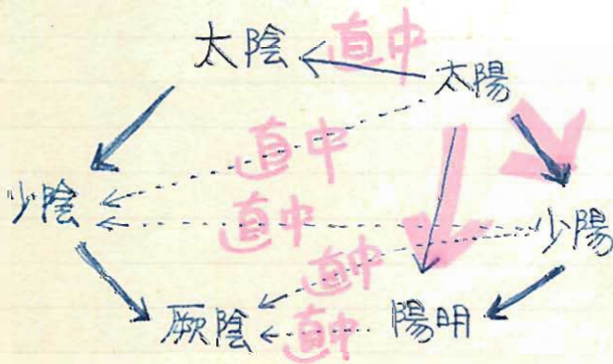
元々胃腸の病を持っている人 → 五積散。(同時に治す。)

(先表後裏の法則とちがう。)

脾胃の虚寒

病気の進み具合。(悪化)

その1.

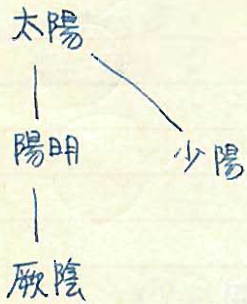


その2.



人參ト
↓
六君子ト → 水毒
三九汚心ト

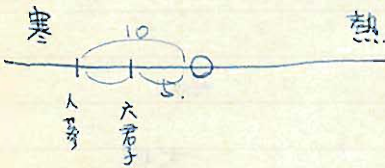
その3



直中 ... P.32 を参照

参)

四逆湯 — 發熱 (真寒仮熱)
 真武湯 — ほんじは寒証で見かけ上の熱。
 太陽病とまちがわない事。



7/15 (6回)

病因

内経
傷寒
金匱
難経

三条

宋
陳無執

三因極病証方論

1. 外因
2. 内因
3. 不内外因 (外因, 内因以外のもの)

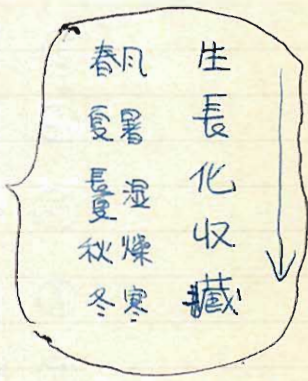
外因

風 寒 暑 湿 燥 火

春 冬 夏 土 秋

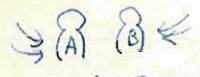
六氣

六邪
淫

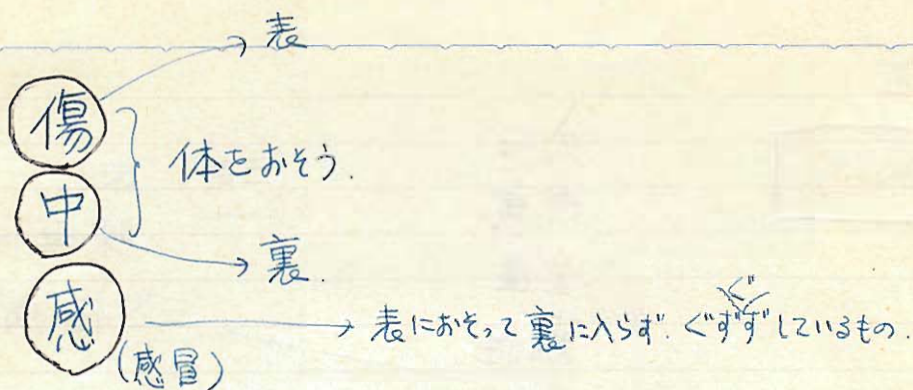


① 六氣が異常な型を取る。
↳ 適応限界をこえる

② 内傷なければ外感なし。 外感病 (外因による起る)




Aは風邪引かぬ。 }
Bは風邪引く } → Bは内傷をもてる。



傷凡 (中凡の事)
太陽病.

風邪 (外風)

- ① 春の主気
- ② 発病急.
- ③ 変化速
- ④ 活動多変 (不定性, 游走性)
- ⑤ 輕揚性 (浮越性) ... 頭, 顔, 表, 肺. 
- ⑥ 肝筋を犯し易い ... ぶぶ, ケレン.
- ⑦ 風は百病の長.
(ほとんどの病と結びつく)

風 → 痺^ヒ病
行 → 病

破傷風.

發表劑. 防風

四物降下湯 (内風を治す)
四物 芍薬

内風

原因 ① **肝血虚** → **陽気盛**
陽 陰

(肝風)

ハクシ風 - 白芍薬 - 麻黄

② 熱 → 内風

寒邪

(陰邪) ① 冬の主気

寒^勝則痛, 寒主収引

② 凝滯性 → 気滯血滯

分泌物) → 稀, 清.
排泄物)

③ 収引を主る.

④ 陽気を損傷 ... 痺脈. **痛み** 患寒.

* 中寒 → 脾胃 (急性胃腸炎, 腹痛)

↓
裏

(寒)	人参湯 ... 吐下
胃	大建中 ... 拒按 (芍薬の効)
	小建中 ... 喜按 (芍薬-肝)
脾胃	- 五瀉
肝	- 芍薬 (下腹)
腎	- 真武

痛痺 (寒痺) → あらゆるヒヤにひる.
まわりの筋肉がひきつっている.

内に入る (肝経) ... → 寒疝.

下腹部から陰部に向って痛む (ひきつる)

↓

五瀉 = 芍薬.

肝 ↔ 痛み

表寒 } 五積散
裏内傷 }

④ 少ない時 → 寒邪を追い出す **麻黄**

“ 多い時 → “ + 陽氣を補 **附子, 生姜**

参考 → 陽氣だけを補 **鹿茸**

なにかの理由で

陽氣虚 → **[内寒]** (腎, 脾胃)

暑邪

… 陽性の邪.

① 夏の主気

② 熱勢強

③ 升性

↑

④ 散性

… 外に広がる.

⑤ 津液を損傷

… 体がかたく, 口渴, 便秘.

⑥ 気を

… 補中益気.

… 人参.

⑦ 湿と組み易し

… 気候.

○ カッコウショウキサン.

胃腸カタル.

古方 → 五苓散.

傷暑 — 夏まけ.

中暑 — 日照病. → 仁心不明
↓
心せう

セトシエキト.

白朮ト.

白朮加人参ト.

↓
熱をさす.

↓
気, 津液を補う

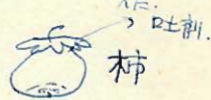
心 → 多汗, 冷汗.

麻黄 → 柴胡桂枝.

(汗) やめる.

うりのへた → 吐劑

当芎散 → 利水劑



内暑はない。

湿邪

…… 湿熱 ↑ (酒, 肉)

陰邪

① 長夏の主気

② 重濁性 …… 体が重い. 防己黄耆湯

(兼証)

③ 粘膩性 …… 水毒. 長い. (補-ツキしては)

④ 停滞性 …… 関節(むくむ). 慢性化しやすい.

⑤ 気滞を生ず …… 桂枝.

⑥ 脾胃を犯し易し …… 平胃散. 手足が重い



重い. (あごの部)

↑
内傷があれば外感なし. (強い)

その他.

むくみ, じくじく(皮). 多痰.

水虫 → 湿熱
かゆみ(熱)

いんまん → じくじく
かゆみ.

酒, 肉類, 油類 はやめる様に.

リウマチ { 湿痺 → 着痺
 { 風痺

化し易い → 熱 (防己黄耆湯散)

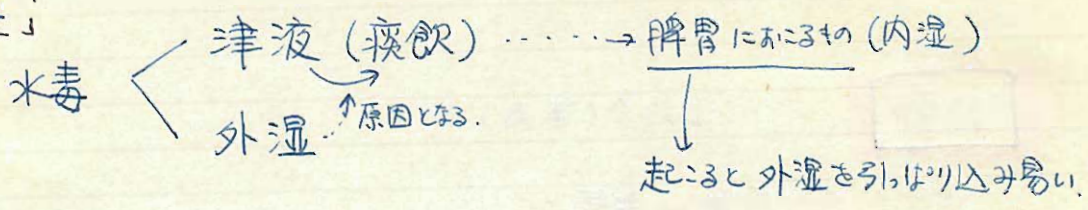
黄色.

赤い. { カサカサ → 湿毒飲 (熱毒)
 { ジクジク → 消癰散 (湿熱)

水毒 { 津液 (痰飲)
 { 外湿

風寒湿 → 五苓散 ^{表(汗出)}
 防己黄耆湯 ^尿
 表虚 ^{七虚} → 便秘 ^{なふり} 起る

内湿



リョウケンジツカンサン → 外湿

平胃散 → 湿
 (胃内停水なし) 手足重い

ジャボジャボ → 痰飲 → リョウケンジツカンサン

漢方
 効効の胃腸薬

燥邪

あまり少い
 秋の主気

- ① 乾燥性 鼻, 口, 目炎.
- ② 津液を損傷
- ③ 火となり易い 熱に変わり易い. バクモント.
- ④ 肺を犯し易い からせき, 黄痰, 小便不利.
ねばねば
 ↓ 外そう, 鼻が利.

内燥

多い

津液不足
陰虚

→ 発汗剤のかけすぎ等

} — 燥

→ 老人

バクモト (老人性気管シエン)

マシニン丸

糖尿病 (ショウカチ)

陰虚すれば熱を生ずる

火邪

なりた5

① 火傷

② 五邪変じて火となる

~~熱~~ ~~肝~~ ~~火~~

熱との違い

↳ 程度の違い

性質 ① 病熱急速 病程短

② 上炎性

③ 津液を損傷

④ 熱勢強

熱証のひどいもの

⑤ 血熱 → 血流加速

出血

上の出る

鼻血
吐血
咯血
三湯
シヤシヤ
オウガイ
オレンジド

⑥ 脈絡を損傷

皮膚病, おひき, 湿疹

消火散
温清飲

⑦ 心に入り易い

はん点が出る

赤, けろ, 熱感
いたい, かゆい

陽明. うかごと. 意識不明

青. いたい → 寒

陰暑 → 冷房病. (月寒)

[内火]

内傷病の熱証のはたはたしいもの
証

陰虚 → 熱
キノコウジン
(油, 肉, 酒)

口内炎.
口角炎, 目 — 肝.

痛 ———— ナハツジンキガン

8/5 (7回)

夏風邪 → 無汗の時 (麻黄) 自汗 (桂枝).

→ 主に五苓散. (夏に多い)
水をさばく.

夏 → 表虚.

内因

..... 感情.

七情

怒 喜 思 憂 恐
悲 驚

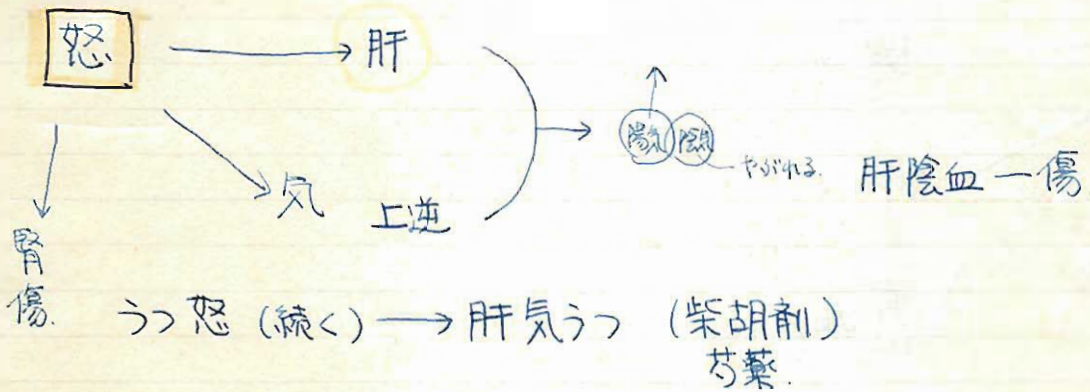
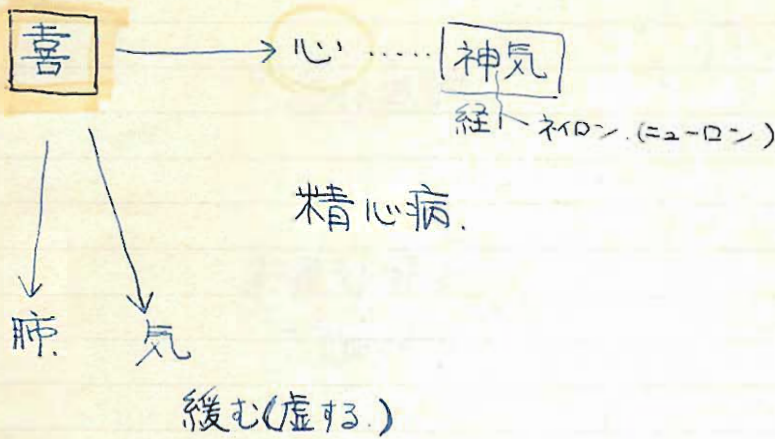
→ 環境に支配.

{ 病因論
シヨウコウ論.

→ その月に判る.



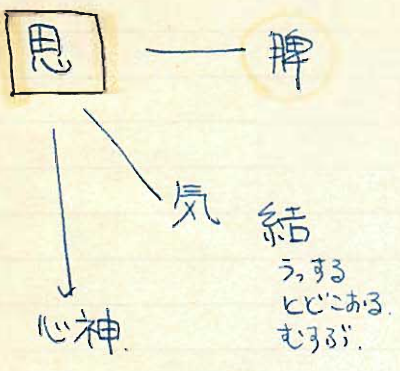
「漢方の心身医学」アミナガロウ著.



思 → 考える.

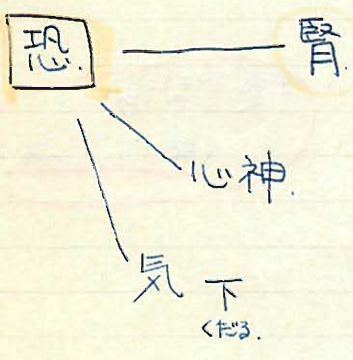
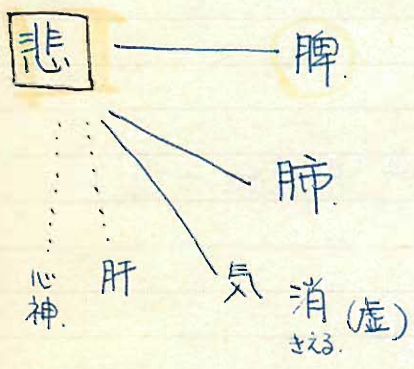
表胃 → コウロ散 (気うつ)

又 亦



半夏厚朴湯

抑肝扶脾湯
肝の脾虚



心腎不交 (オウレンアキウト)

胆 → 決断の官
胆

驚

腎

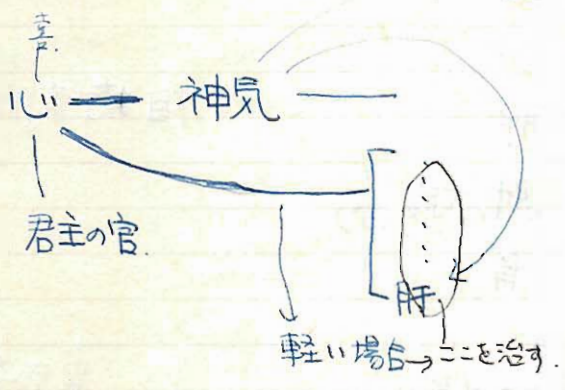
心神

竜骨牡蠣

気乱
みだれ

心は神を藏す。

重い場合



不内外因

① 飲食

過食

1. 一過性 脾胃傷

2. 食滯

(平胃散)

特殊 (じんなものを食するか)

1. 生冷 脾胃陽気傷

2. 油, こいもの } 痰熱 (キョウミン)
味のこいもの }

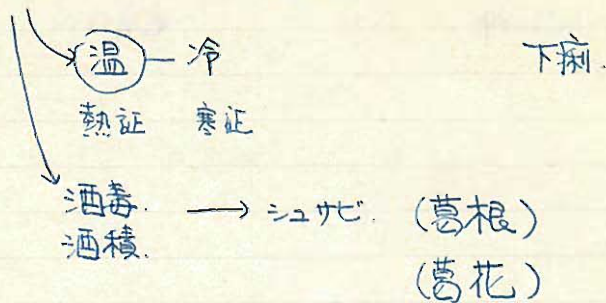
脾胃 — 湿熱

3. 辛燥 熱

傷 → 実になる人と虚になる人がいる。

二日酔い } 黄連解毒 — 湿
 五苓散 — 熱
 腹瀉心 — 吐気

4. 酒 湿熱



5. 酸 肝

苦 心

甘 脾

辛 肺, 大腸 (3")

鹹 腎

相乗関係が強い.

過少

気血 } → 不足
 シン液 }

象形薬理学

↓ 目には目を.

中毒 → アレルゲンを作る.
 黒やきを食わせる.
 毒には毒をもて制す.

→ 下痢 湿

排せつ物 = 温 毒

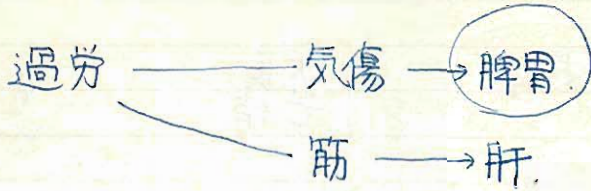
肥満 = 湿熱

リンゴ 也同じ

羊 ひつじの肉 → あたたまる.
 マン.

升降
浮沈

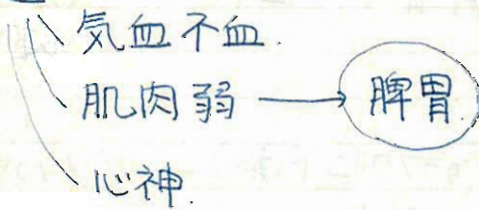
② 勞倦



- ・ 久く視れば血も傷^{たが}る。
- ・ 久立 → 傷骨。
- ・ 久行 → 傷筋。

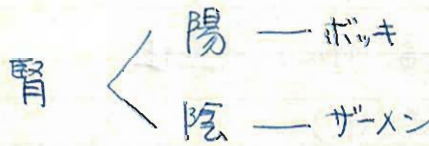
補中益氣湯

過逸



③ 房勞

腎虚



④ 外傷

1. ケガ 打撲 (気血共に滞) 血にけ滞どまら。
2. 虫, 動物。

虫に咬られたらすぐ
お薬を下さい

ほっておくと内傷(リウマチ, 神経痛)に
なり易くなる。

10年, 20年先。

(骨にまでたどり着く)

化のし易い → 熱証

8/19 (8回)

便秘

{ 大黃 芒硝

裏熱

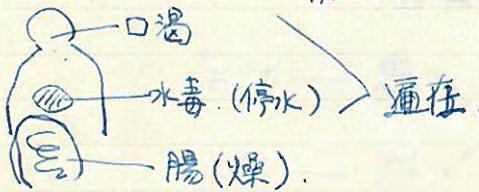
・ 腸の乾燥 → ニン 仙 { マシニン
キョウニン
トウニン

・ 血虚 → 四物湯
加味道 (四物トの加減^オ)

・ 脾胃キノウ低下 → 人蔘ト
小建中湯 (滋^シン作用)

・ 胃キノウ低下 (胃水) → ブクリョウイン (胃内停水)
水毒 (お^ウー^リカ^ナに停滯)

胃 → た^カ腸が水分不足



サイコ, オウゴン → 湿熱 (軟便)
三^ノウ^ノ心ト → を取る
(熱性強い)

・ 大柴胡 → 下痢 (急性熱性疾患)
に便)

下痢 → 下劑 (食中毒)



下痢しない食中毒はひどくなる。 → 黄芩ゴット。

腸間内部のものだけを下す。 → SHIEN, ひまし油。

シエン (腸管のみを下痢)

止まりこむ

すぐ止められる

冷たい水を飲むと止まる。

活性炭ものもせきとすぐ止まる。
(吸着させる)

生理学, 病理学。

気, 血, 水. 五臓六腑

流体 ←→ 固体

相互関係深い。

経絡 (固体と固体のつながりのライン)

↓ 太
↓ 細

{ 流体生理病理学 → 全体的.
{ 固体 " → 分析的

気

(用)

陽気

①キウ
②温

気 軽い

(衛気)

陽気

重い

深さ ↓

臓気

中気

宗気

経気

営気

(衛気)

臓気

中気

宗気

経気

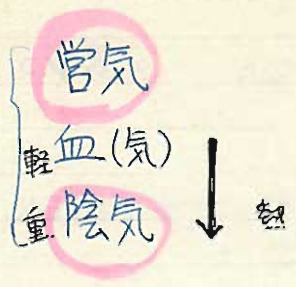
営気

孔最



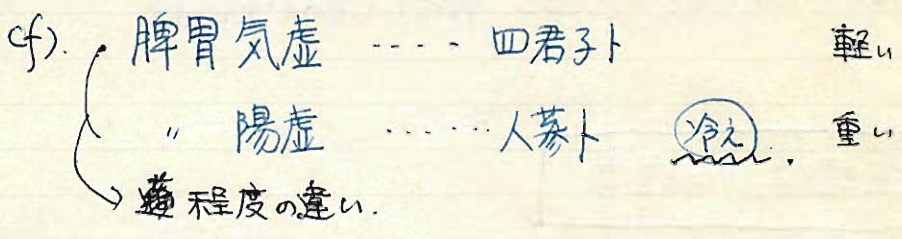
太陰肺経

① 実質
② 冷



管気, 血気, 陰気

津液

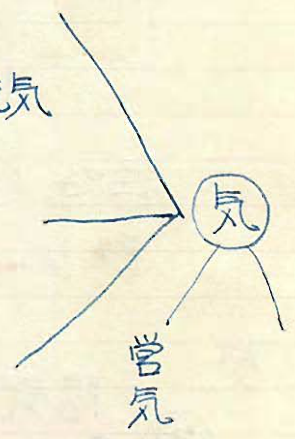


気

[生成] 食物 (水谷) → 胃 → 脾
 気 後天の元気

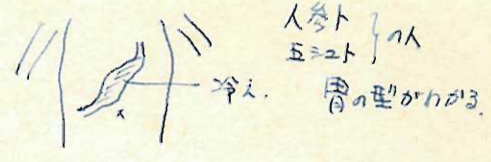
腎 (先天の元気)
 精気

肺 — 天竺の気



老衰

営(榮)
衛



[作用]

- ① 活動力・機能 —— 臟氣
- ② 温煦作用 温める作用.
- ③ 防御作用 —— 衛氣 (体の外がわを^エ通^キている.)
(表の氣) (体表^ミ面.)
- ④ 氣化作用 —— 氣がほかのものを^ク変化させる.
 (例) 小便を出したり出さなかりする. (ホウ^クの氣化)
 ・ 麦茶を津液にするかしないか. (脾胃の氣化)
 ・ 鼻をうるおす (肺の氣化)
- ⑤ 固澀作用 —— 固めたり^{セツ}澀^{セツ}したりする作用.
 ・ 汗を出さない様になる. (キ^ムと^シめる)
 (考) 表虚 - 氣虚 → 衛氣虚 → 固澀作用低下
 ↓
 汗が出ない
- ⑥ 臟腑及各器管の調節 —— 經氣
- ⑦ 血, 津液を輸布する.



ケイシ フウリョウ丸 } 駆瘀血劑.
トウカク ショウキト }

肺は津液を輸布する。
↑
主氣.

氣がとじこまり
↓
血のとじこまり → 瘀血.

中気 → 脾胃いで摂取した水谷とそのエナジーを指す。
脾胃の気より少しは広い。(小建中, 補中益気ト)

宗気 → 肺からもう少しは広い意。上焦の気。

[病理]

気虚 — 疲労ケンタイ, 無力感, 口唇血色なくなる, 萎黄 (顔色)

ものしやりの
あらく

言
頼言
(肺のジョウ)

肺主気
脾主中気
腎藏元気 (陽虚)

四物ト
使ていけ

気滞 — 胃... 食欲なくなる. 胃がはる, ゲップ (嗝気)

肺... ゼン, カインク, アキビ.

肝... 神経性. キョウキウクマン — 加味道.
(ホハクハル)

コウソ散. ← ヒの気う
風邪.

タイリン... 耳が聞えない. (気う)
(小柴胡
コウソ散の合方.)

湯は、おゆでのませる。

カコンオウレンオウゴト —— 子供の発熱性下痢。

五苓散 —— 子供の下痢。

↓
はきがある時は水で 湯はダメ。

気逆 —— のぼり易いから下におりていくのが正常。(頭寒足熱)

↑
上にあがる。

肺 —— セキ。(ソシコウキト)
降気

胃 —— オウシン, オウト, シヤククリ, ゲツフ。(センアツカカヲシセキト)
重い石で下にする。

肝 —— 怒, 頭痛, のぼせ, 耳なり, 青顔, 青筋立つ。
(偏頭痛) 肝系。

サイコ, シヤクヤク —— 上逆をあげる
ホツタンセ, サンシシ —— 肝熱さす。
加味道. ちゅうとうサン。

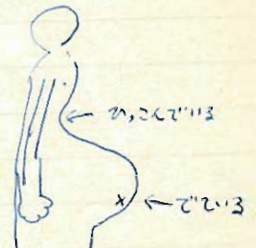
気陷 —— おろちすぎ。

中気



中気でさえてはいる。

内臓



中気陷。

↓

又ツコウ, 胃下垂. 子宮脱.
内臓下垂.
大便出すぎ, おりたの. 帯下
尿ヒンサク.

脾虚から起る。(オツジト)
(補中益気)

サイコ } で引き上げる。
ショウマ }

四君子
人参 白朮 茯苓 甘草
十全大補
リウクンシト。

中気不升 —— めまい。

(ちゅうけいノボラス)

脾胃の気虚から来る。(補中益気)

↑ 垂麻

血

[生成]



心は血を生ず

[作用]

- ① 營養作用 (榮)

[病理]

血虚

少氣 (あさい呼吸)

短氣 (早い呼吸)

神 — 不眠, 胸さわぎ, けんぼう症, おじろき易い.

肝 — 肝藏血 (四物ト), やせる, 筋肉ナンシヤク.

or 六味丸

モクゲン スギン

肝, ケイン — 表

髪がぬける, 月経異常.

腎血, etc. — 内

十全大補ト.

流産.

すべておきかえ.

眼が赤る.

腎 — だるい. 足こしなむく, 他イ, 口福, 耳なり

めまい (ズウシ)

あたまさくさ

赤味 虚熱

肺 — 燥熱, セキ一ネタン, 血.

(切診) 少腹急結. (在下)

ニキセ 核承+コツク

血滯 (瘀血)

肝レイガン トウガクジョウキ } 肝の瘀血.

(内診)

- 口乾
- 生理前内出血.
- 左肩凝
- 頭痛
- 腰痛
- 冷入, のぼせ.
- めまい
- 耳鳴り
- 腹滿 (虚滿 → 枳実, 実滿 → 下)
- 転失気
- 便秘

(望診) 心. — ツツチクオウト.

- ① 腹部のコウケツ. ② イタミ. (夜中に痛む. せせれる様なイタミ. いたみが移動しない)
- ③ しばしば出血を供う. (赤黒い感じの色. 血塊をまじる)
- ④ 皮ツ (サハだ) — 皮ツ甲錯 ... 血燥. 薏苡仁, 地黄. ハトムギ. → 薏苡附子敗酱散.
- ⑤ 赤紫色のほん点 が出易い. あざが出来易い.

→ 血ハン

④ 細絡. → 毛細血管が 出てくる.



浮腫 (実腫 → 五苓散, 猪苓, 小青龙, 虚腫 → 八味丸, 防己, 苓甘, 当归散, 桂枝茯苓丸)

血熱 — 血に何かの理由で熱をもつ.

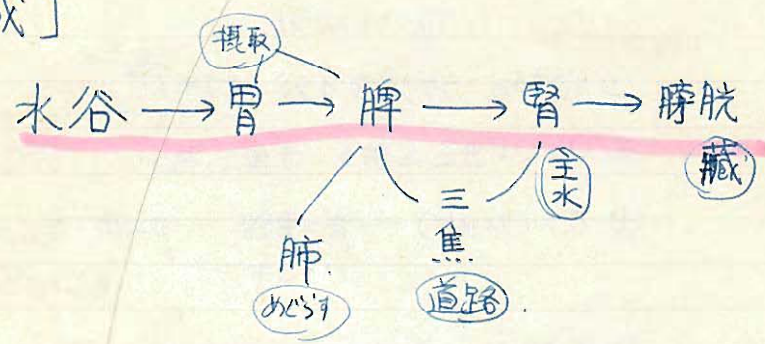
① 出血. 吐血, 咯血, 月経過多. — 鮮紅色. いかにお強い.

② 皮ツに赤い斑点. (温清飲) シンパン (胸のあたりがモヤモヤする), 口渴.

水 { 水毒 (水滯) 頭暈, 頭痛, 耳鳴, 内淫汗, 痰, 吐瀉
 鼻水, めまい, 口唇の乾燥, せき, 痰, 臥室 (臥室の乾燥)
 のせき 嘔吐, 水逆, 肩こり, 車酔い
 動悸, 胃内停水, 下痢, 腹痛, せき, 尿不利.
 多汗, くせき, せき

津液

[生成]



① さらさら → 津
 ② ねたねた → 液

[作用]

- ① 全身を潤沢する. 津
- ② 筋骨, 関節を利する. 液
- ③ 血と同源. 血液とリンパ液の関係.

[病理]

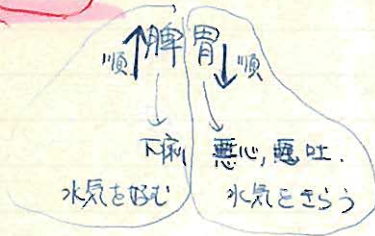
① 不足 (内燥) — マシニン丸, 油腸湯 (不効薬湯)
 肺 — からせき, ねたん. 麦内湯
 胃 — 口燥. 秋口のせき // 燥 // 八味丸

茯苓 → 筋腸肉油を治す.

↓ 湿
外へ出る.

NOSE
↓ 引っぱた感じ
先で出る
↓
水物を好む
(果物)

② 痰飲 (内で生じる.)



脾は湿を生む.

胃内停水, 下痢 (水コリ性), 動キ, 悪心悪吐.

肺 — ガイツウ, 鼻水, むくみ. (小青竜ト)

ホウコウ — 五苓散, 五苓散.

[精]

先天の元気.

(六味丸)

① 生命維持作用.

腎インをオキサウ.

② 生長発育作用.

③ 生殖作用.

cf). 水谷の精微
↓
エッセンス.

まとめ



① 気は血の帥なり
(津液)

② 血と津液は同源
ケツブツシュ
血分腫 (ケレ丸)



③ 気と血の陰陽の関係

四君子 → 十全大補 ← 四物ト

④ 精は気血の源の一つ

八味丸でコントロール

ゴウリ散 → 純粋気の薬 (血の薬は入っていない)

四物湯, 加味道, 柴胡, 黄芩, 竜胆, 浮肝.

9/2 (9回) **五臓六腑**

<漢方に必要上の10冊. 文献>

1. 入門概論書
2. 漢方医学入門・基礎と診療. (中国漢方概論)
3. 生理・病理.
4. 診断学. (中医診断学)
5. 薬物 (臨床常用注約中薬手冊)
- 6.7. 処方解説 (漢方処方解説 矢数通明・方剂学)
- 8.9. 臨床 (漢方診療医典・中医内科証治概要)
10. 漢方医語辞典.

3年で50冊目標.

五臓六腑

肝 (裏)

① 将軍の官. (外からの敵防衛.)

・ 抵抗力の低下 (柴胡剤) ... 体質改善薬.
(抗病力)

(カゼを引き易い.
病気になり易い.)



② 藏血. (血をたくわえる).

・ 肝血虚 ... 全身の血虚につながる. **四物湯**

筋 (やせ) 目 (目眩) 顔白色, 爪 (白く)

髪 (ぬげ) 婦人生殖器 (月経不順, 排卵.)

↓ 血衰じて髪はなる.

(女人 ... 産後. 髪ぬげる. → 肝血虚)

肝瘀血 婦人諸疾患.
ヒコウ, さされる様を痛み.

カレハカン
柴胡大カント.

肝熱 血に熱をもつ. → 出血
吐血
咯血

大柴胡.
竜胆シヤカント.

③ 主筋 (筋を主さじる.)

血虚 筋肉のコウレン・ナンジャク → カネツリのマゲ/バシ不自由.
肉ジュンキンテキ → マダツのヒコウ.

肝癰風 手足のふるえ・角弓反張・肝臓性高血圧. チヨウトウ散.
口眼歪斜 (顔面神経麻痺) 半身不随 菊花, 右外り, 竜骨牡蠣
七物降下湯 (四物汁 + 右外り) 柳肝散 (木賊土)

凡は筋の余りなり. → 凡の発育, 変形, 色, つや, の変調.

④ 主疏泄 (ソセツを主さじる) 氣為用 (氣が生々化する, のびのび化する.)

肝気うつ (実) 胸脇苦満・ゆううつ感・消極的.
うたがい深い・神経質・精神ヒガ.
月経異常 柴胡 + 芍薬.

加味道
柴胡疎肝湯

肝熱 熱↑・怒りほい・あせる・ののしる・頭痛 (偏頭痛).
目眩 (目つらう)・癡狂・難曉・嘔 血熱 出血.

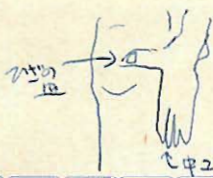
柴胡黄苓

肝血虚 うたがい深い・目眩 赤黄色・坐臥不安.
手足煩熱, カシ, 山シ, 熱地黄.
コアキシ芍薬 (六味丸 + カシ, 芍薬) 目眩.

加味道

肝陰虚
肝気の上逆 肝気うつのみ化する. 血虚から.
怒りほい・頭痛 (偏) → 明け方 右外り散.
動くと出てる 休むと消える.
ぬまい.

怒りほい 設か成
生理症 ぬまい
イライラ



※ 肝の気虚はあまり(ほとんどの)見られない。

⑤ 主眼 (目を主とする)

四物ト。

・肝血虚 目が蒸る。(マテイ賢いにくみ), 視力が下がる
トリ目 眼精疲労。

柴胡, 黄芩。

・肝熱 目が赤く腫れる。 なみだ目。 光がまぶしい。

・肝気上逆 目眩。

⑥ 経脈 → 足の厥陰肝経 と 足の少陽胆経。



肝で止まる。
Yの部を通る。



すぼみのぬい目の線。
これ、こりが出る。

生殖器と関係ある。(肝の経絡)

柴胡, 根, 青皮。
逍遙散, 柴胡疎肝湯(気うつ)
未だに多い。

柴胡+芍薬 → 気うつ。

・肝に冷え セン気の痛み(肝経にそと) 頭痛。(耳のうしろ, 偏頭痛)
(肝寒)。 うなじがこわばる。 シモウ。
Eシユ, カシヤウ, ニッケイ, ショウキョウ。

五シユユト

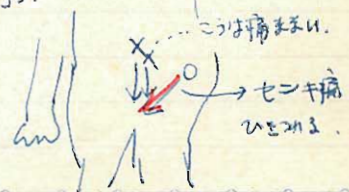
・肝熱 ソケイ部リンパが腫れ易い。 液房リンパ腺が腫れ易い。
のどがはれ易い。 小柴胡トルエキカケン
中耳炎。

→ 小柴胡 干姜 石膏 (熱)。

偏頭痛。

寒滞肝経

cf).



ここの痛みが多い。
→ センキ痛
ひんやり。

参). 瀨尾 虫垂炎
腎結石。



骨経がほろ。

区別) { 柴胡清の散 → 肝外。
ヤイカレンギョ → 胃経

胆 (表) ... ほとんじ肝胆いっしにぞる.

① 決断の官.

二重構造. ... 消化器系の活動.

寝る.

胆虚 ... 不眠・不安感・精神決断・あくび・気が弱い.
(胆怯)

サンショイ.

② 清浄の腑 (官) (体をきれいにする)

→ 將軍の官と相ま、ている.

病氣 → 慢性化する.

③ 熱性 → 熱し易く、止め易い.

熱 → 偏頭痛 (胆経) 口苦 不眠. サンショイ

冷 (胆寒) ... 不眠痲疾, 吞酸 (おはい水が上る)

ウツト (温胆湯)

↓
不眠

心

① 君主の官 代行 → 心包絡 ① 代行 (心藏キウ)

② 外衛.

② 藏神.

神氣 → 精心思慮活動. (背後であつ、ている.) → 怒

心血虚 ... 神経ショウジョウ. 七情さわぎ. おこりき易い. 不安感.
夢をよく見る. 不眠. ものわすれが多い. (老化現象のものとはちがう).

キヒト

心熱 ... わーっせう感じで出る. 発狂. 精神異常. 笑. しばかりいる.
せん語. (うかごと). 悪夢. こんめい (たおれる)

亡陽 (急に陽虚) → 亡陽 = 意識消失
 アラシ、ニクイ、アサシ、カンキョウ
 人参、四逆湯

心陽の虚 意識不明、ミン (ねてばかりいて起きない)

③ 主血脈 (血管を主さじる)

cf. 短気 (みじかい呼吸)

血虚 ショウ気 (せんはく呼吸) → あたしい呼吸

顔面ソウ白, 顔面青紫, 黒, ほく, 光沢がなくなる.
 髪の光沢がなくなる. ぬけ毛.

トキ、ジツ、ジノウ、芍、ルウカンキョウ
 アキョウ. 芍ト.

瘀血 左胸痛, 呼吸困難

心気虚 血脈 → 脈の異常 (細弱, 結代)

心陽気虚 全身のケツレイ. 全身青くなる.
動悸 (はたはたしい虚)

↓
 不整脈の一種)
 人参、黄耆、
 玉桂、茯苓、
 炙甘草
 四君子.

心熱(火) 心動悸, 心煩 (胸がモヤモヤ), 顔赤色 のほせ, 不眠, 便秘.
心火上炎.

シンパン
 葶、黄芩、大棗、心桂、
 木通、レンコ
 三麦湯心ト.
 セイロンレンシン.

④ 主舌 (舌を主さじる)

心熱(火) 赤く腫れる(舌), ホリーア、びらん, 口内炎.

心血虚 血色がなくなる(舌)

心気虚) " (場合により黒くなる)
 陽虚)

心瘀血 赤黒くなる (舌)

心風 (内風) 舌がこわばる. 言語障害.

→ ヒヤクシモノカノヨリト
 つける事

舌質

⑤ 主汗 (汗を主さじる)

心気虚 自汗

心陽虚 大汗 (べたべた)

心陰虚 盗汗

最終

心神不寧 → 不眠, いらい, 健忘, 驚き易い.

六神丸, 救心
 シュニヤ, オンジ, カンクワン
 茯苓.

⑥ 心華在面 (心の華は面にあり)

- 化に出る.
- 心血虚 ----- 顔面が白, 青紫色
- 熱 ----- 赤 (顔)
- 瘀血 ----- 青黒 (顔)

⑦ 経絡.

心包経, 小腸経.

小腸

① 主化物分別清濁 (化物を主として清濁を分別する)

{ 血脉, 脾胃 から来る.

- ① 糞 便.
- ② 陽気 陰気.
- ③ 水分吸収

② 消化器系の異常

小腸寒 ----- 不消化, 腹がぼろ, 痛む, 腹鳴, 泄瀉 (下痢).

熱 ----- ガス, 腹がぼろ, 泄瀉 (小腸の蠕動が強い)

便秘: ← (小腸の蠕動が弱い)

舌炎, 口内炎, 心煩.

三内浮心湯 (胃熱を下す)

実瀉がその子に泻す.

心, 小腸, 胃の熱をとる.

- 下痢 {
- 瀉 ----- 軟便
 - 泄瀉 ----- 下痢 (普通)
 - 下痢 ----- 粘液, 血 (赤痢, 白痢)

四君子湯, 人蔘湯
 小建中湯, 補中益氣湯
 六君子湯

なれ者 { 気虚.
 { 水毒.

脾胃

[脾] (ア=キ分)

① 主運化 (運化を主とする)

麴菌 山藥
 ニンジン, 白朮, ヨウイン, 枳実

全身にはこぶ (消化吸収) → 筋肉が弱る → 手足が冷えてく

気虚 ゆる便 (アヤカシめ), 腹満, 泄瀉. **四君子ト**

陽虚 泄瀉, 腹満, 腹痛 (鈍痛), 秘冷. **人蔘ト**, 五苓ト.

② 統血 (血を統べる)

血液のコントロール.

↓
 陰
 気虚, 陽虚 出血 (下血)

人蔘ト → (タツタツ)
六君子ト **四君子ト**
 キセト. (大量)
 セインレンミン

③ 主中気

気虚 中気虚, 全身の気が不足, 巻の無カ化.
 ライ言 (しゃべるのあらく), ゴロゴロ ねてばかり (2113).

中気とこある ちやう満 (上腹部はる)

中気のぼさず めまい, 頭痛. → **小建中ト**
 つかゆると頭痛 (子供)

↓
 中気の下陷 子宮脱, 脱肛 (3供)
 ↓
脱肛.

補中益気

④ 主肌肉 (肌肉を主とする)

陽虚, 気虚 アトニ (やせてく) **四君子**, **六君子**, **人蔘ト**

湿, 痰飲 筋肉が重くなる, 水太り. **六君子ト**.
 (=陳ト合方)
重い

平胃散.

⑤ 主四肢 (四肢を主とする) なまけ物が多い

気虚 手足の無力感, やせてくる(手足). 四君子ト.

陽虚 冷えをきたす(手足). 人参ト.

湿, 痰飲 手足が重い, むくみ(手足). 平胃散.

⑥ 主口唇 (口唇, 口内を主とする)

気虚) 口唇の色蒼, ツリ白 四物トばかり使わない事.
陽虚)

熱 口内炎, 口角炎. (寒のときでも一部ある).
口臭. 口中が甘い.

痰飲, 湿 口中が ~~甘い~~, うるおう. 水がたまる.
つばがたまる.

⑦ 好燥悪湿 (燥を好み, 湿を悪む)

正常 → 乾燥している.

病氣 → しばしば水毒が起る, 水毒が起るとここが病氣になる.

白朮
水毒を治す

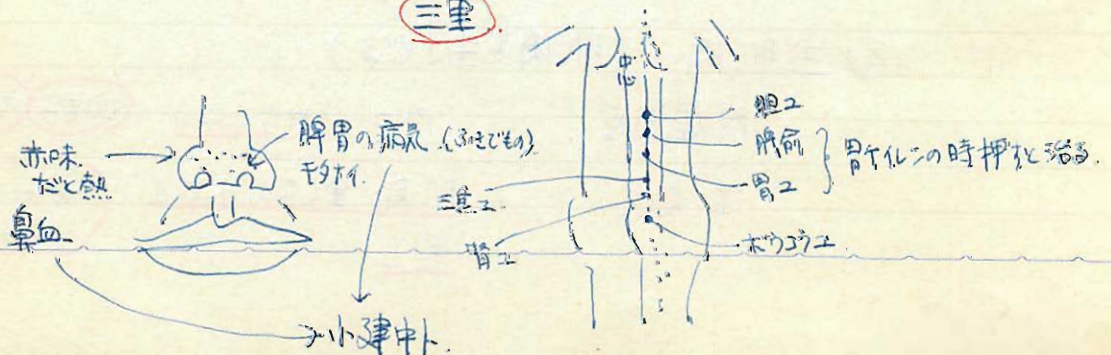
痰飲, 湿 腹がぼろ, 泄瀉, 浮腫, 胃内停水, かつ, 体が重い.

湿熱 黄疸, 萎黄 (顔色), 泄瀉.

仁丹 コウト.

⑧ 経絡 脾経, 胃経.

三里



建中 を取
↑ 平胃散

透く気湯
白虎湯



[胃] (オウト分)

① 水谷の海

腐熟水谷
(消化)

食滞 → 食積、食下り、
吐瀉、悪心、嘔吐、ゲップ、
平胃散、加味平胃散、
生姜、半夏、ササゲ、
ライオン(大根の種)
体臭、口臭、便臭にふはつ臭

糖尿病(多尿、多食、多飲)

② 性質 → 降

熱

多食、異常コウシ、胸ヤケ、D内炎

石ツウ、千モ、サンシシ、オウレン、千クウ、サウリ

承気ト

好湿燥悪

熱食
ミミシ心

口渴

白虎ト

田熟
手足がほてる

泄瀉、オウト、オシシ、シャクリ、ゲップ

胃寒 → 便秘・索証の下痢。
ゲップ、ツラボウ、フジツ、ビロウ(白気湯類) 上にあがってしまう

冷
(寒)

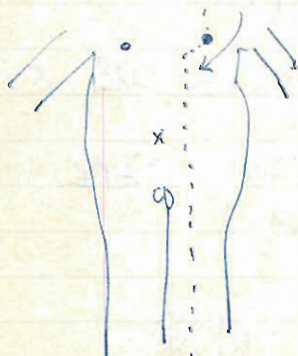
食欲低下、胃のチウ満、冷たい水を吐く。
シャクリ(一退性) → あたたかい水とのませる

人蔘ト

③ 経脈

足の陽明胃経 → 歯ぐき

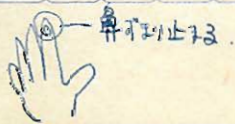
歯ソウノウロウ
胃の寒(血色悪くする)



鼻ずまり、ちくのう症

腹直筋のコウレン → 胃経

足の指がそそる

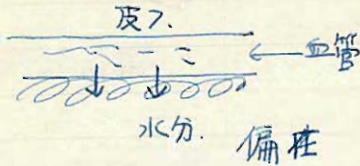


9/16 (10回)

薏以仁

水毒 → 湿
→ 血燥

むくみ → 鼻の頭
脾胃



肺

① 主気 (氣を主とする)

肺気虚 咳つ、ゼツク、弱気、声が弱かく低くなる。胸が満
自汗、汗が無力感。

肺気滞 咳ソウ、ゼン、キョウモン (ただえ)、胸の感優。

② 輸布津液 (津液を輸布する)

肺気虚 津液をめぐらす、口渇、皮の枯つ。

肺気滞 水がどこにおる 浮腫、小便不利、出すむ。
(潴イン)

燥邪が入り易い。
津液がめぐらない。

→ 肺燥

カンコイ (びんせき)、ムタン、大タン、
咯血。

③ 主鼻喉 (ヒコウを主せじる)

肺系

四君子. 補中益気丸.
(言語軽微)

肺気虚

..... 声が出なくなる. 呼吸弱くなる.
ヒコウとヒコウにせざる.

人参, 黄耆, 白朮, 山薬, 炙甘草.
① 小青龙
② 苓甘五味辛甘湯

肺寒

..... のじがかかくなる, 声がれ, さらさらの鼻水, 鼻閉. 全身性冷感
麻, 細辛, 干姜, 桂.

肺熱

..... のじが赤く腫れて痛む, 鼻の中が赤く腫れて痛む.
シュサビ. 呼吸が荒くなる. (鼻が動く).
息熱く感じる, ヤブからせき, ネビネバのタン (おれおれ).
ひびく. 肺の陰気せざる. → 石, 干姜, 黄耆. 麻杏甘石.

肺燥

..... 鼻のじがかれ. 肺熱をかぬること多い.
かうせき, タンがでない. 乾燥してる. → テンシウ, アモウ, 麦門, 地黄, 百合.

肺タイン
痰飲

④ 主皮毛 (ヒモウを主せじる)

肺気虚

..... 自汗, 悪風, 風邪 ヒコウあり. 矢豆気 (呼吸困難)

肺痰湿

..... 浮腫

大腸

① 主伝導 (デンドウを主せじる)

補中益気湯

便秘, セイン, 下痢, 腹痛, 腹満, 痔, 便血, 脱肛.

(中気の下陷.)

大黄, 黄耆
カサト.

大腸の湿熱.
オウジ湯
乙字

痔 ← (麻子 - かせき湯
肺熱)

サイコ } ↑↑ 升提作用.
ショウマ } ↑↑ ヒコウあり.

五運 (子供の生長発育の運れ) 六味丸

かた → 八味丸の人はずっと立5でくる。

腎

① 藏精気 (セキを貯す)

腎陰虚 ... 発育不全 (子供), 不妊症 (女性), 腰無精, 少精 (男)
(気) ケンボウ症.

腎陽虚 ... インボ, 早漏, 他イ. 全身活力の低下.
(気)

② 主水 (水を主とする)

陰

腎陽気虚 ... 水分の低下, むくみ, 動悸, 排尿異常.
水毒.

小便はかみらず透明. (陽虚すれば寒)
下痢.

腎陰気虚 ... 排尿異常 (黄, コイ)

陰虚すれば熱を生ず

③ 主骨髓 (コツズイを主とする)

腎陰虚 ... 足脛, 軟弱無力. 齒 (シンノーロウ, 齒が生えにくい)
動作がカンマン. ノウズクも虚する → ズウシ
ケンボウ, 知力がおとろえる.

麦内湯.

腎虚 (真武湯 → 左と腎虚がある。
ロウカンシンキ湯
ハ味丸

腎虚

④ 主耳 (耳を主せむ)
耳鳴, ジロウ, 難聴.

⑤ 腰者腎之府也 (コシは腎の府なり)
↓ house.

腎陽虚 ... 腰痛, 腰冷, むくみ, 浮腫.

共通

めまい, 水がたまる

腎陰虚 ... 冷えない, 腰がたるい, 煩熱, 腰痛.

足腰が軟弱.

かかヒが煩熱, いたしい.

⑥ 主納気 (ノキを主せむ).

肺 { 空気が入る ... 腎
はく ... 肺

ガイソウ, ゼン.

陽虚 ... シンタン

陰虚 ... ソウネツ

燥熱

麦内湯

シバクジンキ丸

六味丸, ゴシニ + 麦内湯.

カゼキ, 顔が赤くなる.

⑦ 主二便 (ニベンを主せむ)

→ 午後 4時 → 午後 2時

陽虚 ... セイヤ ^{ゴウ} 五更洩, 鶏鳴下痢, 排尿異常.

(アシ) (アシ)
小便中.

明け方の下痢 ... 真武湯.

陰虚 ... 便秘, 排尿異常.

[膀胱]

→病気のとき、本当に膀胱だけの場合が多い。

(チロト、(湿熱)
五苓散

① 藏津液 (シエキをゾウす)

排尿異常

経絡に熱
→ 腹脹 写射

湿熱 排尿痛、血尿、赤、黄、こぼる、熱感、
小腹ちり満。

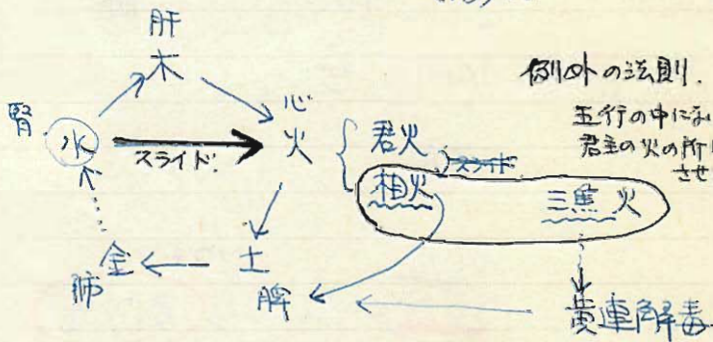
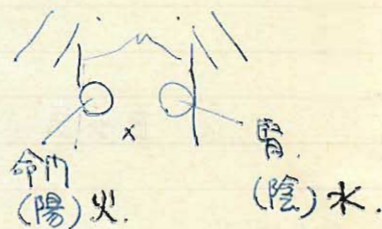
チロト(熱)
五苓散(湿)

寒 透明、ヒンカク、^遺尿、
○ 人骨ト、苓桂湯

メイモン
命門

..... 右の腎(陽) 左の腎(陰) 腎。

命門の火 = 腎陽。



例外の法則。
五行の中に和ので、
君主の火の所にスライド
させて入れている。

命門の火がオトエル → 君火もオトエル。
病が重い。

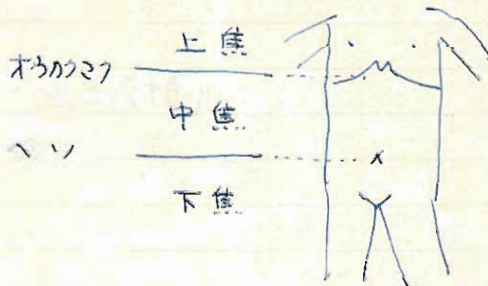


黄連解毒湯

三焦

名あて形なし。……キノウタケ(実態はよい)

部位



① 司決瀆 (ケトクモツかきこる)

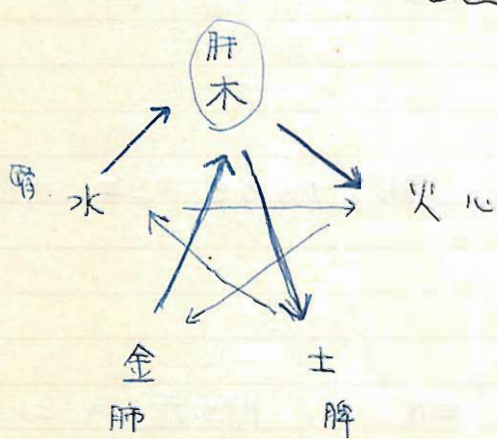
流す。という役目。

袋。……胸膜, 腹膜。

ネニマクによく病気が起る。
↓三焦。

膜に効く薬 ← 黄連解毒湯
(三焦の薬)

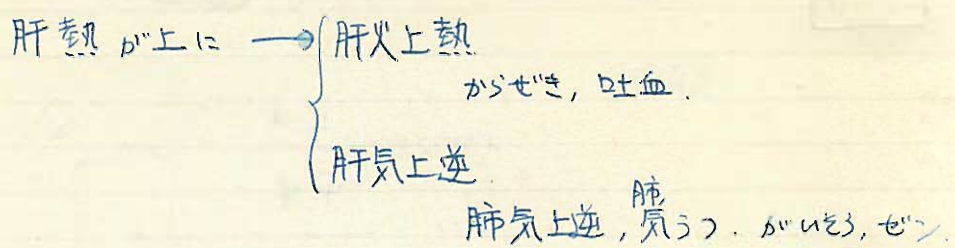
関係
肝



1) 脾 横逆 (木樹土)

肝気横逆。……腹痛, 吐逆, 嘔吐。

2) 肺



3) 心

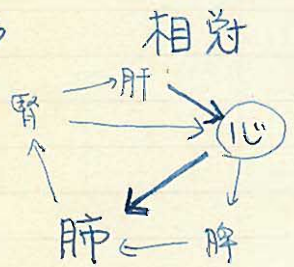
血がバタイ. 肝血虚 ... 心血虚. 顔面ツパ, 重唇.

4) 胆

肝 ↔ 胆. 口苦 ... 肝熱, 胆熱.

心

1) 肺



熱, からせき, 吐血, かいそう.

2) 肝

血がバタイ. 心の血虚 ... 肝血虚. キンニクふるふる, めまい, ケレシ.

3) 腎

命門が盛になる → 腎が虚.
 ↑
 心が盛

心腎不交
 黄連アキョウト.

浅田 — 中野康章 — 森田幸江

大阪

岸本 — 木村博昭

— 長久

高橋道史
— 宇西守国

京都 — 新井庄五郎 — 細野四郎 — 坂口弘
— 八郎

和田啓十郎

湯本

北豊

清水

相見

山田光之

大塚

荒木増次

芳郎

佐藤

山本尊平

三四

山本

420

興田

和田正季

辻藤

伊藤清夫

藤平

松下

小倉重成

長染善大

後世方

森道信

天板格

西沢

道明

圭壺

百道

石野信守

木村左宗

二藤訓正

小涼

竹山晉民

馬江

富士川遊

荒野一雄

川

清

昭徳

生

4) 小腸 \leftrightarrow 心

5) 脾 相生関係 帰心湯

脾

1) 肺 脾虚は肺虚を呼ぶ。 小青竜ト。
リクンシト。
人参湯。

2) 心 血が媒体。
脾は血を統ツツする。

脾陽虚 \rightarrow 心 出血 人参湯
帰心湯

3) 腎 水が媒体。
脾が陽虚 $\xrightarrow{\text{水}}$ 腎 むくみ。
水毒。

4) 肝 内風 (肝風)
脾虚 \rightarrow がはらばらし

5) 胃 \leftrightarrow 脾 表裏関係

肺

1) 心包 肺の熱が心包に逆伝する。

2) 脾 相生関係の逆。 中気が媒体。
肺虚 \rightarrow 中気虚 \rightarrow 脾虚

3) 腎 相生関係.
肝虚すれば腎虚する. ミバクジツ丸.

4) 肝 相対関係.
肺虚が二次的に肝気上逆する.
(ホコガキキキョウ).

5) 大腸 表裏関係.
承気湯類.
→ 大腸も治して肺も治す.

腎

1) 心 (相火 命門) 腎陽虚 → 心陽虚.
腎陰虚 → 心虚陽見かけ

2) 肝. ^{カンジン}肝腎^{カク}專の関係. 腎陰虚 → 肝虚. 陰 → 肝気上逆. 六味丸.

3) 脾 相生関係. (命門) スライド. 腎陽虚 → スライド → 脾陽虚. (命門)

* 虚熱の時実熱の藁で一過性によくなるが、
がフッとあはでれるなる。

4) 肺

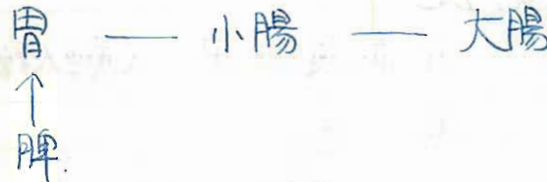
腎陰虚 → 虚熱 → スライド → 命門 → 肺陰虚
相対
家 熱

5) 膀胱

腎陰虚 → 膀胱 冷す。

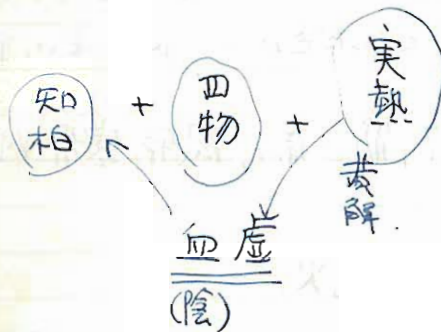
その他

管のS



承氣湯
麻子仁丸

10/7 (11回)



診断学 症候群

⑧ 四診

診察の方法

望診 ... 色, 形, 表情, 診察 → 診断

聞診 ... 呼吸, 痰, 汗, 声の調子

問診 ... 住所, 姓名, 出身地, 職業, 年齢, 家族, 地域

切診 ... 触診, 脈, ツボ

1. 寒熱 初ハバツヤ
2. 汗
3. 頭身 頭部の上, 障害
4. 便
5. 飲食 吐き嫌
6. 胸 胸, 腹
7. 聲 耳, 舌
8. 渴 口の乾燥

女の人の特殊性
小人の "



普通 → その人にとって、…… 具体的に於るす

望

神気 …… 見た時にいきおいがあるかどうか。

影 才六感的覚感。才一印象。

色 …… 顔, 手足。

青 赤 黄 白 黒 (黄色人種赤提)

東

中央

平均色。

色の出方 (鮮明か、…… 必し病いでない。軽い浅い。
くすんだ色が、…… 病が深い。重い。赤りがある。

青 — 肝, 筋, …… 痛む, 風邪, 寒邪, 内寒。

赤 — 心, 熱, 火。

黄 — 脾胃, 湿, 痰飲。

白 — 肺, 燥, 血虚, 寒。 {ラード
骨。

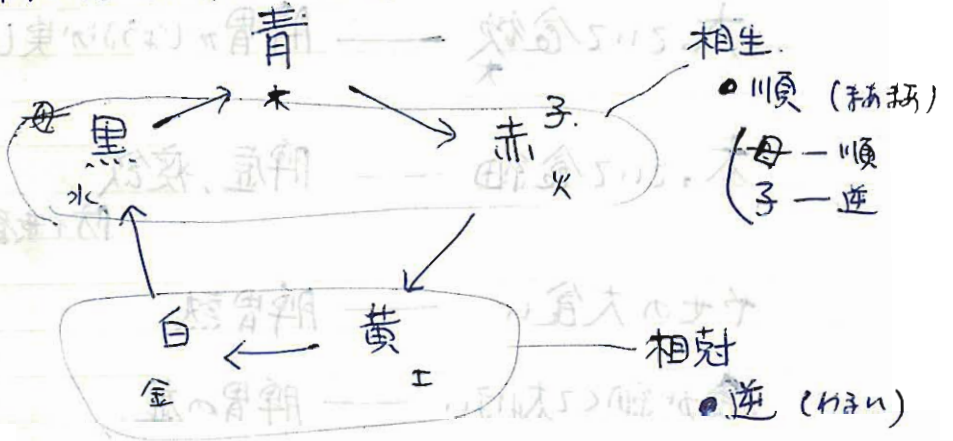
黒 — 腎, 寒, 水, 虚, 瘀血 (赤黒い)

{カラスの羽
すず

生理 (早め - 瘀血
遅め - 血虚)

基本.

● 肝が悪いのに青色しない場合.



剋(黄) - 順 (自分が剋たれる)
剋(白) - 逆 (自分が剋たれる)

体つき.

筋肉 ... 太, やせ. 脾胃

筋 ... スジ 肝.

胃の気の虚実 ... 筋肉の柔剛.

肝血の状態 ... 筋肉の太細

腎の強弱 ... 骨の大小.

↓ 素養にかかわる問題

一 診をもて他診に変える事は出来ず

太_大ていて食欲_大 —— 脾胃がじょうりか実している。

太_大ていて食細 —— 脾虚, 痰飲
防イ黄唇。

やせの大食い —— 脾胃熱

食が細くて太い —— 脾胃の虚。

皮膚

うるおいをもちシユンクである事 (良好)

肺, 気血を観る。

皮_{カサカサ}フ枯燥 —— 血虚, 陰虚, 津液不足。

皮_{ササガ}フ交_{カラガラ}カク —— 瘀血。

細_細絡 —— 色 { 赤... 熱
赤黒... 瘀血
紫... }

体毛

濃_濃すがる —— 肺虚。

急に_急に_軟かる —— 肺虚, 気虚。

浮腫 — 痰飲, 湿, 気の比にあり, 瘀血, 風.

押してすぐむくむ — 実腫

〃 むくむがゆるい — 虚腫.

しわが寄る — 肺虚, 気虚.

うるおっている

うるおっていない

) 津液の状態

きめが細かい

〃 粗い

) 榮気の状態

水分がうるおしていません。

運動, 姿勢

前に曲がる 肺虚.

胸をはる 肺実. (せき) 痰.

胃を出す 実

〃 つかさず 虚

腰から抜ける 腎の虚.

寝方.

横 (寝姿勢) 寒
あおむけ. (寝姿勢) 実.

普通の横.

顔を明るい方 陽, 熱, 実
" 暗い方 陰, 寒, 虚.

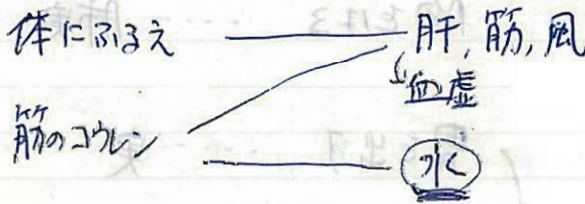
座が不定. 煩燥. 一般に熱証.

体を動かすのがイヤ 寒証.

立ち上る時.

背にかがめる ——— 筋

長く立って揺る揺る. ——— 骨.
ふらふら揺る.



中風

⊖

→開く.

カ件ヨウリウカンサン

10/21 (2回)

舌

① 心 言語障害.

象形薬理学

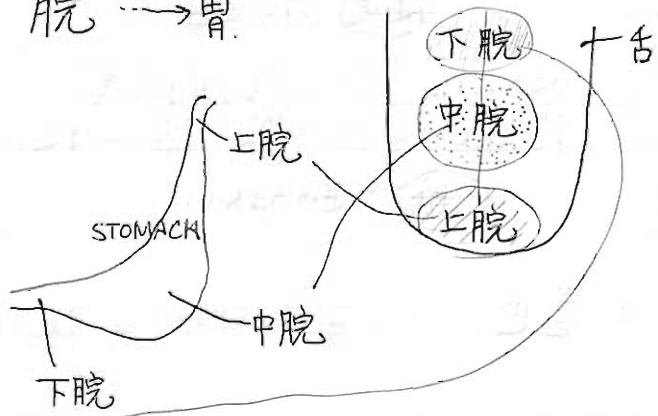
↳ 目には目を, 足には足を的.

心臓 → 舌の形に似ている.

② 口唇 → 脾胃支配.

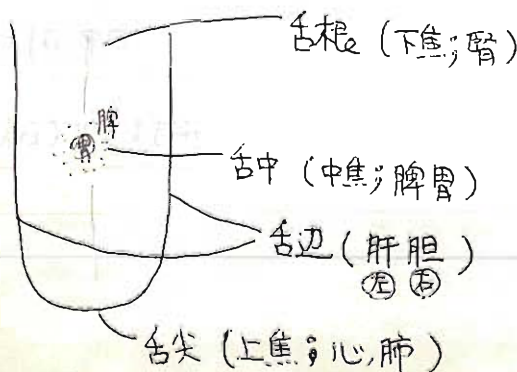
舌 ... 胃に水谷の入り関所

腕 → 胃.



③ 五臟六腑

絡脉 → 舌にまでめぐっている.



④ 粘膜 …… 三焦支配 (黄連解毒湯)

⑤ 表 (表を去る事遠からず)

以上の5つを時と場合によて使いわけろ。

主に3, 次に2. 舌自体の病は1.4.5.

舌苔 ←————→ 舌質.

1. { うすい …… 病が初期, 表, 軽
厚い …… “ 末期, 裏, 重

(健康) うすい白苔.

2. { うるあていほ …… 湿, 痰飲, 寒
乾燥していほ …… 燥, 熱, 血不足, 津液不足

(健康) 一定のうるおい

3. 着色. …… コーヒー, みかん etc. に注意.

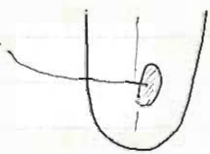
< 苔のなくなった時 >

乳頭がなくなり一皮はがした状態.

・ 陰虚証, 陽虚証 (フシ)

↓
口中乾

↓
口中潤



ハ丸か?

・ 熱が盛ん時乾 (白虎湯).

舌を見る時…唾液をのみこんでから出すと
乾燥に見える。
舌を見るか、しほしく筋肉
をおかくと湿ってくる。

<白苔>

- ・病が比較的浅い。
- ・風, 乾, 湿, 痰飲, 寒



厚くなる (小柴胡, 大柴胡)
乾 (白虎湯)
(半夏泻心)

<黄苔>

・白苔より、より深い。裏, 熱。

↓
脾胃の熱

うしろ黄苔
(大柴胡湯)

↓ 黄苔
(承気湯)

湿熱 ……ネトッという感じ。

<灰色> ……傷寒の直中に出る事が多い。

- ・黒苔のうすいもの
- ・潤 — 虚寒証 (傷寒の陰病)
- ・乾 — 熱証

<黒苔> ……重い, 深い, 厚シユウタイである。

- ・はなはだしい 寒証
- ” ” 熱

舌質

色, 形, 動き.

<色>

正常. ピンク, 赤.

- 赤 熱 (実, 虚熱)
- 赤味少し 寒証, 虚証.
- 絳色 (ニリ赤色, 比赤色) 熱証の進行.
- 紫色

{	こい	か	わ	り	油	こ	く	か	わ	く 熱証
	う										す
- 赤紫, 青黒色 瘀血.
- あい色 病が重症.
- 黒色

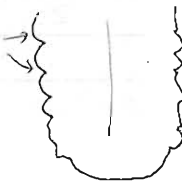
{	乾 熱	ほ	ろ	ほ	だ	し
	潤 虚寒	ほ	ろ	ほ	だ	し

 - ↳ 重症

<形>

- {
 - しまっている感じ (老) 実証
 - ふわー, しい感じ (嫩) 虚証.

↳ 齒形がつく.



- うすい, 小さく, 細い.

↳ 心虚的 (先天的)

- 大きく, 厚く, しりかいかい

↳ 心実的

舌でない芒刺^{ボウシ}が出ている → 熱
ヒゲみだり毛の。

裂紋^{ヒビ} (舌のひびわれ) → 熱
→ 陰虚



<動き>

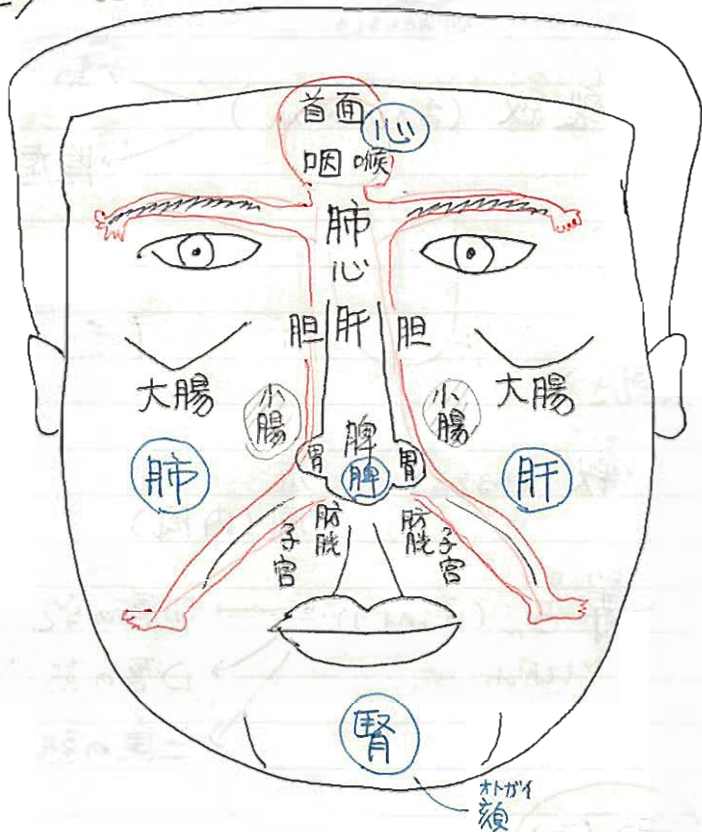
戦^{ウツ} (ふるえる) ... 虚
風 (内風)

舌^{ツツ} (しなめずり)
もてあそぶ → 口唇の乾 (小建中) · 脾胃の燥
→ 口唇の熱 () · 脾胃の熱
→ 三焦の熱 (三焦)

顔(面)

- ① 面為諸陽之会 → 顔に陽が上がる
- ② 面病專屬胃 → 胃に病がある時、顔に出る。
- ③ 心
- ④ 五臟六腑

<部位> 表

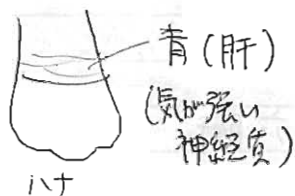


ニキ

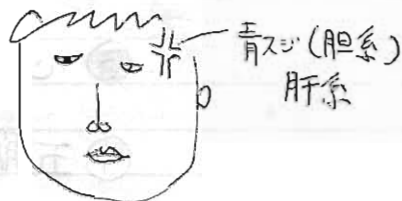
口のまわり → 半腹心

唇

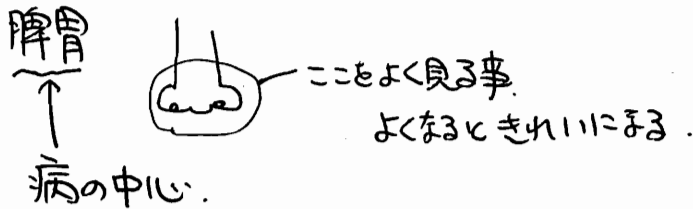
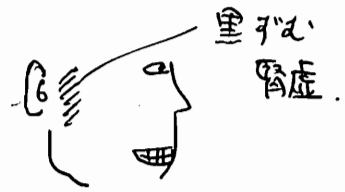
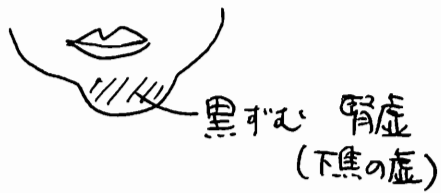
<色>



ハナ



赤味 { ホーッ 虚熱
 カーッ 実熱

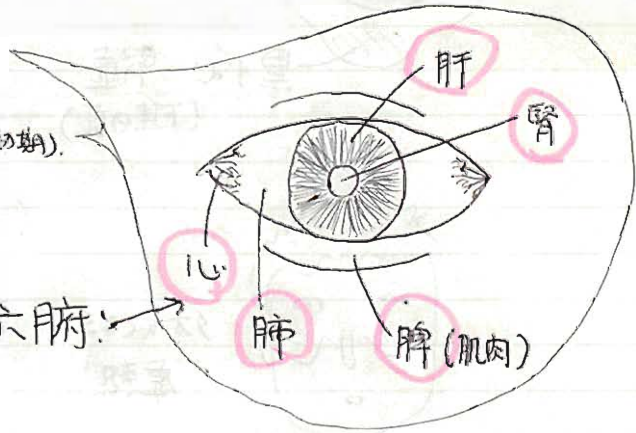


<自覚>

- ・ 熱感 胃熱
- ・ かゆい 胃熱; 表風, 湿, 熱
口唇過乾.
- ・ コウガンカシ 風邪
(顔面神経痛)
- ・ 痛み 気, 血のヒビこり.

眼

- ① 肝
- ② 表 (初期)
- ③ 腎
- ④ 五臓六腑



目の精気 {

- 好 ... 軽い
- 乱 ... 重い

目もと涼しい ⇒ 青白い (寒証, 肝寒証)

熱いまぶた ⇒ 熱証, 肝熱証


大きい — 肝実

小さい — 肝虚

上目づかいで見る ... (乾) ... 腎虚

まじりのつりあがっている — — カン気上換

まばたきのはげしい人 — — 肝に病のある人
 尚

 乱 ... 心血の虚
 (血管)

まぶたの黒ずんでいる人 — 腎虚

まぶたのはれぼろたい人 — 水滞, 脾虚

表熱 …… かゆい
 発熱 …… かゆい (シウコラビの熱)

斜視 ——— 寒風



目が黄ばんでくる ——— オウガン. 脾胃の湿.

涙がよく出る ——— 青竜湯, 肝熱
 胃に病.
 (水滯)
 (熱)

羞明
 シウメイ (常時) ——— 肝熱, 胃熱, 表熱.
 (光がまぶしい) 血虚.

泣る (マイテイアの人) ——— 肝血の虚.
 腎陰の虚.

シウメイ
 弱眩 ——— 肝血の虚.
 (トリ目)

ものがはきりと見えない ——— 肝腎の虚, 脾虚.

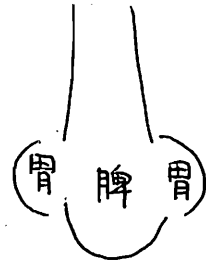
ものが2つに見える ——— 肝腎の虚.

粘膜 ——— 三焦の熱.

1/4 (3回)

鼻

- ① 肺
- ② 表 (風邪の表証 etc.)
- ③ 胃 (脾)
- ④ 大腸



手陽明大腸系 (合谷)
足陽明胃系 (三里)

型

大きい 肺実.
 大きすぎる
 它が大きすぎる) 肺虚
 やせて細い

色

鼻頭 — 脾胃.

むくみ 鼻頭
 うすく黒ずむ。 → 水
 つかつか光る →

まぶさ → 寒

青い → 痛 (筋) → 腹痛.

黄 → 湿熱, 便秘

白 → 気虚, 血虚.

赤 → 熱





瘀血 (葛根紅花湯)
胃熱 瘀血



青 → 痛 (柴胡, ヨツカン散)
赤 → 肝熱 (出血の赤さう)

穴

乾燥 → 胃熱, 肺熱

つまり → ①~④

鼻水 …… ネバネバ → 熱

サラサラ → 寒

あわ → 風 (発汗剤必要あり)

黄 → 熱

白, 透明 → 寒

ネバネバで白い → 寒

ふきでもの → 肺熱, 胃熱
(鼻茸)

痛い → 肺熱 } 色で分ける。
→ 肺寒

ニオイ

強い → 熱

なし, 少 → 寒

ジュウケツ (鼻血).

ケースバイケース.

鮮紅 → 熱

赤黒 → 瘀血.

うすい → 虚, 寒

口唇

① 脾胃.

② 三焦 (粘膜)

③ 表

型

大きい — 脾胃実.

大きすぎる
小さすぎる) — " 虚.

色

白い — 気虚, 亡虚, 肺虚.

{ 顔面白 → 血物外.
四君子ト.

赤い — 熱 (胃熱)

赤黒い — 瘀血.

青 — 寒, 痛み. 木鬱土 肝 → 脾.

黒 — 寒 (強い)

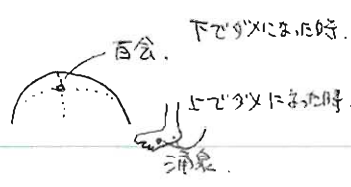
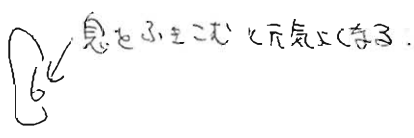
まわり黒 — ゼッショウ.

はれる

赤 — 熱

青 — 寒 (あつみみえい)

脳イットリ → セン ユビの指



口内に痛み ——— 熱, 三焦の熱, シン熱
(口内炎, 類似疾患)
ベーチ

口唇が 乾く. ——— 赤... 熱
赤黒... 瘀血.
青... 虚寒

さける ——— 燥 (シン液不足)

口ひらき、ぼろなし ——— 鼻づまり.
虚証.

耳

- ① 腎の穴である.
- ② 表
- ③ 胆系 (肝胆)

型

大きい, 肉厚 ——— 腎実
小さい (肉薄) ——— 腎虚
大きすぎる

色

白, ほしい ——— 寒, 虚.
青黒い ——— 寒, 虚, 瘀血.
黒 ———→ 乾, 腎虚.



耳が外へくると 末期.

自覚

炎症(初期) → 発熱(表) 十味散, カッコン.
(中期) → 肝胆 柴胡, 竜胆泻肝.

サウサウのの → やかい. あてき.
十全大補ト. → りんご"取れて ショジョク
〈気血の消え〉
応用 → 痔のう.

耳鳴 → 手をあてて音が大きくなる(実)
" 小さな(虚)

ジメイ → 軽い

ジロウ → 重い.

慢性.

傷寒のジロウは少陽病.
サイリン.

〈終戦処理……調理〉

気のじこり(神経症を併う)
(気楽)

のほせ, 耳が赤くなる → 熱

つかれると出る → 腎虚.

左 → 肝 (耳鳴)
右 → 腎.

⇒ 虚.

歯と歯ぐき

① 歯は骨の余りなり.

胃.

② 歯ぐき — 陽明胃のつかさじり.

上...足の陽明胃系
下...手の陽明大腸系

③ 表を去る事遠からず.

<歯>

つやがない。 — 胃虚.

光ってかかいてる — 胃熱

<歯ぐき>

色 白っぽい — 血虚.

赤 — 熱(胃熱) — 赤白.

赤黒 — 瘀血.

黒ずむ — 腎虚

はれる 赤くはれる — ²胃熱, ¹表証.

あまり痛みなく
クワカラ — 胃虚.

う, 血, 赤黒斑 — 瘀血.

出血 — 胃熱(痛み伴う)

腎熱(“供わす”)...六味丸
417.

<歯ぎしり> ^{カカ}咬牙
裏熱

赤子(子供) — シヤクジユウ, 含毒.

<歯が加かたなる> ^{カイン}齧歯

内風(寒風)

ひきつけ. — 肝の内風.

驅瘀血劑.

最初の生理
大便.

血府逐瘀ト.

心臓の瘀血.



狭心症.

頭

髪

- ① 腎.
- ② 血変じて髪と成る. 血.
- ③ 表.

じょうぶ — 腎衰. 血衰.

色 { 黄 — 血虚, 気虚. 血熱.
 白 — 血虚, 気血虚, 腎虚.

ぬけ毛 — 血虚. 熱(上辱)
(ぬける)

ぬけ毛 — 血虚, 腎虚. (腎陰の虚)

枝毛 — 血虚. お腹に虫を持っている
カン (地方の人)
痔.

円型脱毛症 (油風)
→ 内風 (肝)
肝の血虚, 熱.

ホレイ

お産の後のぬけ毛 — 血虚
大病後 " " —

3. け

— 熱, 血燥
↳ 湿熱 (マホー, ヨコカト) 粉状
ヨコニン.
社社.

頭痛

- 基本. 部位.
- ・ 偏頭痛 胆系 (肝胆)
 - ・ 前頭部 (スウツ)
 - ・ 後頭部 — 太陽病 (榮陽部)

全体 複雑



血虚
インラン. 氷高亮にみく. 女房にESうら.
殺せぬ.

自汗

- 午前 - 気虚
- 午後 - 血虚
- 昼 - 陽虚
- 夜 - 陰虚

起り方

- 持続痛 ---- 外感病 (風邪)
- ホッサ痛 ---- 内傷病 (ゴシユ)
- めまいと供う ---- 湿, 痰, 血虚.
(ゼンラン, スラン) 熱 (ミノウ深心)
 気虚 (補益, 小建中)
- モヤモヤと痛心 ---- 血虚 (当考教.)
- 風に当ると痛心 ---- 風邪.
- 寒くなるこゝ ---- 寒 (麻黄附子細辛)
- あたたかくなるこゝ ---- 熱.
- 痛れるこゝ ---- 子供が多い (小建中)
 気虚.
- ものにつつまれた感じのこゝ ---- 水毒, 湿, 痰飲.
毒.
- 頭がかかろうと感心 ---- 腎陰の虚.
ノウハズクサドル
 スイハジクノツカサドル
- 重さ重さ感 ---- 気虚, 痰飲.
 (補中) (ハンビヤクテン)
 (リョウケイジュウカン)

老人、ギョウ腰
 肝臓がん→3日。
 その5、10味丸

ナマケモノ — 気虚か水毒。

(補気剤、利水剤)

朝早起きほい人 — リウケイジュカンを飲ませる

朝方、体をやめて11時 " カキ上逆。
 (千のり散)
 (加味散)

キリでつかひた様に " 瘀血。
 (場所一定)

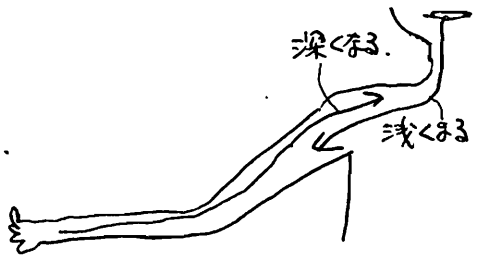
後頭部 → (胃)



11/18
 (14回)

手足 (四肢)

- ① 区画 裏
- 四肢 表.



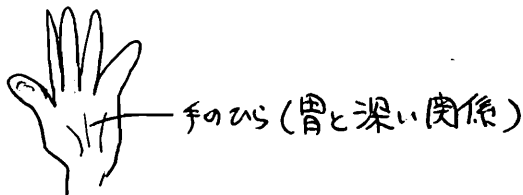
はしか 逆証. { 裏 (腸明病) ↓ 表. } ショウマ } 胃 頸 を 取る.

麻黄湯 (排出を止める)

風邪 → 12日間で治る。 柴胡桂枝。

② 脾胃。

③ 諸 ^元 ~~要~~ の本なり。



皮毛, 筋...

ひざ (関節) ----- 肝にぞくする。

ふるえ 肝筋, 風, 気血の虚。
(110-キンリン氏病)

手足がやせてくる 脾虚。

水がくみ, むくみ 表 → 脾胃の水。

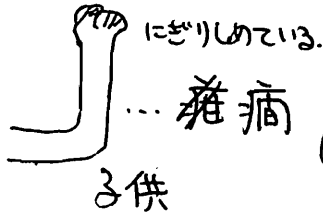
曲げ延ばし { 曲げられるけど延ばせまい → 筋
↓
上の逆 → 骨

{ 曲げられるけど延ばしにくい → 陰
↓
上の逆 → 陽

痛み 寒. 氣滯, 血滯, 血虛.

(赤くはれる) 湿熱

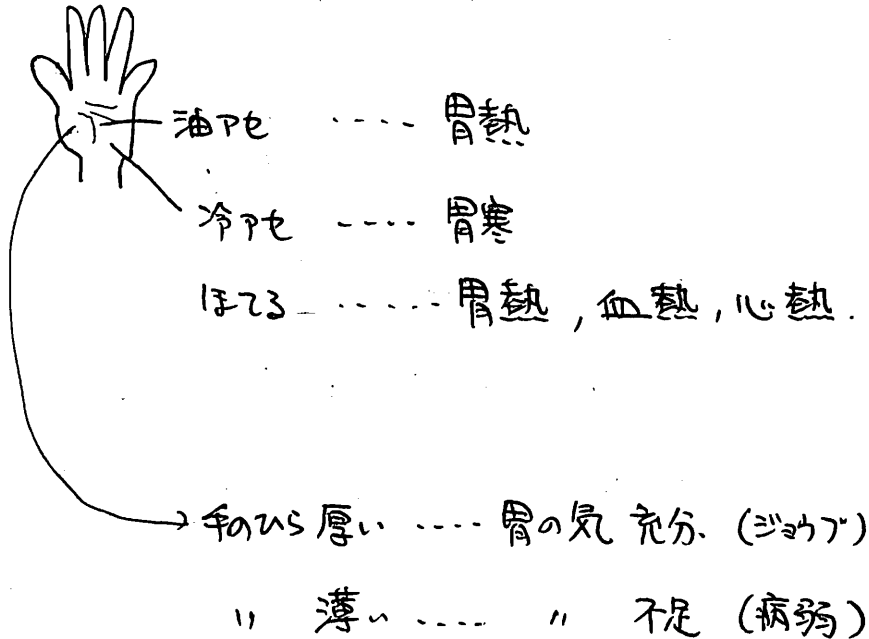
③注 ↓ あらゆると消る (ショウコウとしての熱)



... 痙痙

(鬼頭判事補がテンヤ的痙) 少虚証.

肝, 筋, 風 驚風 → 急に手をにぎる.



油アセ 胃熱

冷アセ 胃寒

ほてる 胃熱, 血熱, 心熱.

→ 手のひら厚い 胃の気充分. (ショウブ)

〃 薄い 〃 不足 (病弱)

解の余りなり (肝の支配) 血の状態がわかる。

指 爪 (色)

ピンク→赤 熱証.

青白 血虚.

ピンクがうしろ 虚寒.

黄色 木鬱

赤黒, うけつ斑. 瘀血.

青 寒, 肝, 筋.

(型)

へこむ 血虚.

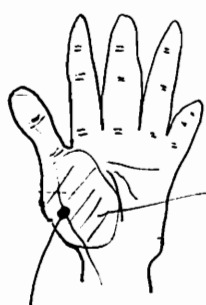
やわらかい 胆虚.

かたい 胆がけいじり

} 人の性格がわかる

つや 津液.

乾ある → あり



指の魚际 (胃)

魚际

青 → 胃寒

赤 → 胃熱

ささくれ → 経絡を見る。

軀幹
~~区画~~

体表面の痛み

ロ...カンミンケイツウ (シヨウコウが^多い)

悪寒, 発熱を併, て痛み

↳ 外感, 風感の表証.

お産の後痛みもの → 血虚, 瘀血.

重く痛みもの → 湿.
(一ヶ所に固定)

マホクアジン
↓
運動に → 知覚マヒ.

移動性の痛み → 風, 寒, 肝.
(加味道)

激痛, 冷感増悪 → 寒

固定して刺痛 → 瘀血.

疲れるとふいに痛み → 虚, 湿

肩こり

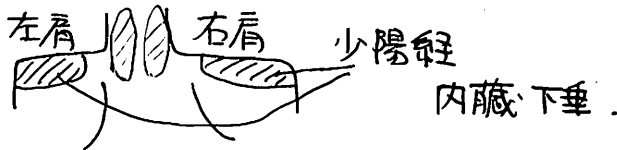
① 経絡

- 手少陰三焦 (23)
 - 手陽明大腸 (97)
 - 足少陰胆 (33)
 - 足太陽膀胱 (97)
- 紫太
カ、カン.

② 筋

③ 反射系(顔面)

④ うなじ ↔ 胃 (仮説)



⑤ 本人がこころ → 虚証 (ウツマン)
他人がこころを感じる → 実証

腰

- 腰は腎の府なり (house (象))
- 膀胱支配

腰痛 太陽膀胱經 → 邪 (寒)

冷えて痛い → 湿寒
重い

五積散

気血のどじこり

↓
痛みが一ヶ所に固定
刺痛

下肢のイジャク 腰痛 → 腎

肝経の冷えからのもある

腹

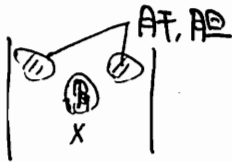
内臓

上腹部 — 脾胃

へソ中心 — 腎

下腹部 — 肝, 腎

痛み → 揉むと軽減 …… 虚.
 按
 ” 増 …… 実
 温め軽 …… 寒
 冷に ” …… 熱



上腹部 …… 脾胃, 肝胆

へソ …… 腎, 脾

下腹部 …… 腎, 肝 ↔ 血.
 ↓ 少部.

上下 …… 脾胃.

移動 …… 虚.

腹鳴 — 水. 寒. 湿熱.

<腹診> ... 自覚症状.

心下部. — 胃部.

〃 満 張った感じ. 胃痛.
 実(骨). 邪実の型. (体は虚証).

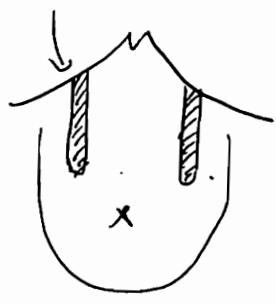
〃 〇 自覚的につかえた感じ.
 胃のタイ感.
 胃虚. 胃実.

心下ヒコウ 胃. ヒビこふる. 停滞.
 胃実. 一部に虚証.
 心下部にくらべて程度がひどい.

心下^硬 満 心下部コウの実, 水がある.
 停滞がひどい.

心下痞堅 上腹部が板の様に硬い.
 弾力が無い.
 モクジョウイ湯.

心下支結 上腹部の腹直筋のケレン.
 木コク土の型で出る.

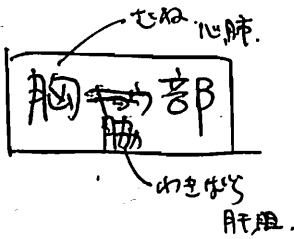


心下急 しんげき 心下部の強いもの
 停滞感の強いもの (胃実)

心下軟 胃虚. フワフワ.

心下支飲 胃部振水音.
 胃の水滞. 虚.

心下濡 押しと抵抗がある (軟らかいけど)
 胃実.

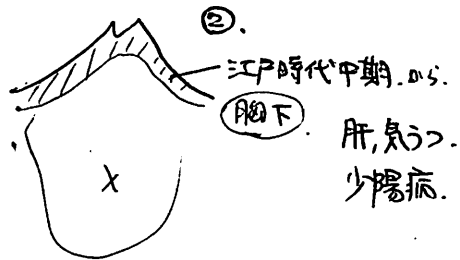


脇下. → 上腹部のゆき.

脇痛

肝 ... 熱, 気, 血, 痰.
 胸脇苦満.

① 心下から心にかけてはた様
 を感じ.
 心苦しい.



小柴胡 — (胸脇苦満
 往来寒熱.)

刺痛 ----- 気滞, 血滞.

脇下 コウマン } ... 肝うつ.
胸 ヒコウ }

心臓部

心煩 ----- 裏熱

動悸

下腹部

小腹痛満 ----- ホウマン.

自覚 } --- 腎虚, 水滞.
他覚 }

自覚 } --- 小便が出る
瘀血か 血虚. (血証)

小腹硬満 ----- 小便自利 --- 瘀血

" 七利 --- 水

小腹^{硬急} ~~コウマン~~ ----- 下腹部の腹直筋がケレン.
コウレン

その結果腸が曲がっている.

腎虚.

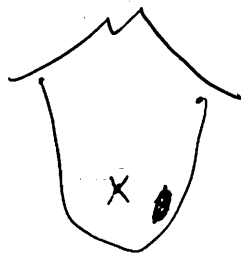


小腹弦急 ----- 小腹硬急より激しい

腎虚.



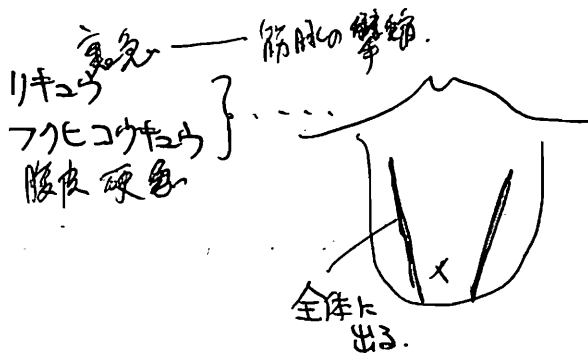
小腹急結 しりが感じられる
 トウがクネに突。
 左下腹部。



瘀血.

生理の時の下腹部の痛み.

小腹フジン 知覚マヒ.(下腹部)
 力が入らない.
 腎虚.



自覚... 痛り, ひきつれる, つぼる.
 脾陰の虚.

腹満 腹部全体のボウマン.

• ちめて抵抗 — (実) 胃実.
 は、こぼる

• やわらかい — (虚) 胃虚.
 抵抗なし

• 自覚的にたいがひ — 瘀血.
 感じる

・押すに心る — 気^張 (気のこぼれこぼり)

・ " もどる — 水滯

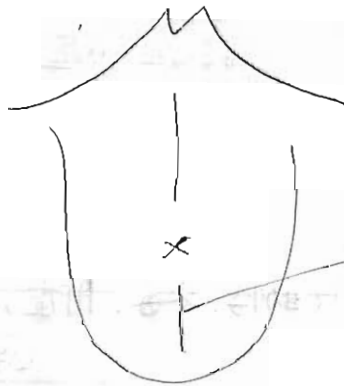
↓
厚朴
(筋の堅強して
いさ)
アト-タイノハ
ツク

実 → 承気湯類

腹鳴 ... 胃腸に水, 痰, 湿熱.

テンシツキ ... 腸に熱, 脾胃の虚.

↓
軽失気
おぼろ



セイノウセン
正中尖.

- ・ 下腹部 — 腎虚
- ・ 上 — 脾胃の虚.

インポツのシンがたいなもの

ゼンノウフオン ... モコモコ動くのかわがる. (腸)

腸動不穩

建中ト. 人參ト.

はきはたしい脾胃の虚寒.

動悸
他覚 自覚

自覚的には水。
大半は虚。
他覚的

はるはだしいもの → 激虚。

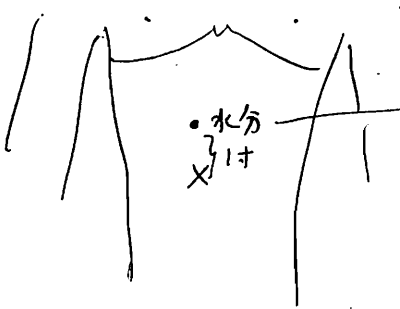
コリ
虚里



心
感じない — 心虚。
激しい — 心虚。

心下部で動悸
脾胃

脾胃の水。
はるはだしい虚。



で動悸。水毒。肝虚、肾虚
四物湯。

ハリで動悸。 — 腎虚。脾虚。

” の下 ” — 腎向の動。 腎虚
力強い — 腎気が多くある。

患
左(右) 腎

右(左)

沈

浮

肺

大腸

脾

胃

寸
關

尺

腹 } 胸脇苦満 }
 } 氣うつ }

5.52
1/6 (15回)

音, 声 での区別

ア
ン
シ
ン
聞診

↓
キク
カク

体臭

油臭い 熱症証
なまぐさい 出血の可能性
くさい臭い 悪性の伝染病

口臭

(胃の病気)
歯ぐき(陽明胃経)

強い 胃熱
すばい臭い ショクショク 食滞
(酸臭)
くさい臭い 胃熱, シギン, 胃潰瘍, シュク.
かぐぬい(芳香) ショウカチ(糖尿)の重症.

汗の臭い

強い 湿熱
ぬきか 湿熱, 肝胆の湿熱.
(少陽胆経)

- 。 強い ——— 熱
- 。 すばい臭い ——— シュクショク。(食滞)
- 。 ゲップ
- 。 おなら
- 。 大便
- 。 嘔吐

音

声 …… 呼吸 { 肺は声音の門 (肺為声音之門)
 { 腎は 〃 の根 (腎為声音之根)

— しやべり方. etc. —

高く、強く、一般 → 陽証、表証

低い、弱々しい → 陰証、裏証.

よくしやる → 熱証.

あまりしやべらない → 寒証.

発声が小さい.
 じぎれじぎれ → 虚証.

話が大きくじぎれ
 出てくる → 実証.

補中益気湯 ----- 言語ケヒ (肺虚), 虫又のなような声
汗が出やすい. 凡邪引き易い.
虚寒証.

ひりりごとく (独語) -----> 虚証, 心機^の虚.

サク
錯語 -----> 心キ^の虚.
- 食性^を失

うわごと
セン語 ... 大きな声で. 内容に変化が多く. 話がうらまじい. こしはハッキリ. → 実証
ア声 ... 声が弱く. 話がとまればきざれでよくわか^らない. → 虚証.

じなるようにしべる. } 五行の色対表也.
うなるようにしべる }
なくようにしべる. } 五藏, 邪.
etc.

一呼吸. , 肺, 腎. -----
ハク スウ. ヤがいてある.

短気 ----- 短い (呼吸) - 間かくが短い. { 肺に湿, 痰飲.
肺の気虚.

少気 ----- 少い (") - 呼吸が浅い. } 虚証, 心虚.

荒い -----> 外感病, 実証

弱々しい -----> 内傷病, 虚証

ゼン -----> あえぐ { 呼吸が急げき, 残い - 実 (肺) ^{湿, 痰飲.}
かんまん呼吸 ----- 虚

コウ
咳 → セイメイ. セイセイヒューヒュー

肺, 湿, 痰飲.

上気 → 肺, 胃の虚熱 (表ノト)

のぼせ.

上気急.

キョウカク → 湿, 痰飲, (1/3ウカミカント)

心膈 = 寒膈 (嗝膈の一種. 疝瘕) → ヒ. ツ.

— カイソウ —
セキ.

肺, 腎.

からせき → タンは出ない. 出てネンタン.
かがい 熱, 燥, 血虚, 陰虚

タンのびるセキ → 肺寒, 湿, 痰飲.
セイメイを供う. モれ易いタン.

弱々しい → 肺虚.
アウが出る

こもる.
タウが出にくい → 肺熱
黄色, イキが熱い

セキに供うタンに → 凡邪がかからむ. マオウの入っている薬を.
アウをまじえる

胸痛を併う → 痰熱をかねている。

胃がはてから
セキがはじまる → 胃実、肺

セキをするほど便
がゆる → 腎虚、肺の虚寒。

セキをおとす便
がゆる → 腎虚。

— 嘔吐 —

有声無物 無声有物
病が軽い

胃。

吐くいきおいが強い、
音が高い → 実証。

吐くのがカンマン音も低い → 虚証

吐物

すばい臭い → ショクタイ。(食滯)

水(吐水) → 胃中に痰飲 (アクリマ、ホ)

ぬるぬるしたものを吐く → 痰 (半夏)

吐血 → 胃熱、脾虚、木コク土
肝キノウ抗建。

すばい水 → 木コク土、肝

ニガイ水 → 胆

ごはんたべてすぐ吐す → 実熱

朝食して夕に吐す → 虚証

吐いたあと
あたたかいものを欲す → 胃寒

“ つめたいもの ” → 胃熱

— エツギヤク —
(シャックリ)

胃気の上逆

難証



声が大きく力強い → 実証

上まで吐らす途中で
止まる
弱々しい → 虚証

早く、回数多い → 実証

ぬくり “ 少ない ” → 虚証

ひきりまじ → 実証

ダツソク → 虚証

—— 平胃散 ——
(ケツフ)

胃の気の上逆.

平胃散.

すばい臭い → 食滯.

ケツフだけ → 胃虚.

—— 噴嚏 ——
フンテイ
(クシャミ)

肺 (鼻)

外感の表証.

急にクシャミが出てくる → 病の治る芽排.

—— ケツシン ——
(アクビ)

疲労ケンタイ.

虚証. (脾虚).

脾胃の寒.

尚珍.

自覚

汗 …… 津液. 気, 陽気

心臓の主ささる. 腎は五液を主ささる.

表肺.

① 太陽病表証. { 無汗
自汗

陽明病 { 経 …… 全身
腑 …… 手足

少陰病 { 脱汗 流る様上.

⑨

自汗

陰気の虚
 { 夜ねて13時 (盗汗) time
 { 昼起きて13時
 陽気の虚

出方

わすかた出る → 表虚
微汗

じょじょ出る → 陽明(陽)
大汗 裏熱(胃)

冷汗 → 陽気の虚 = 寒証.

あたたかい汗 → 熱証.

戦汗 → 病気のテンカン期.
セシ 3.327汗 婦, 悪転化.

汗のあと体が冷える → 陽気の虚.

ねばりた様な汗 → 湿熱.

場所.

頭汗 → 裏熱, 肺熱
 マキョー 表虚, 湿熱
 サイケカン. イニクン
 陽気の虚 サイケカン

汗 { 表虚 と考える。 ^{ケイシ、ホ、ウキ}
 裏熱 → 口渇 ^{ホ、ウキ、ホ、ウキ、ヒヤ、コトウ}

胸汗 → 心虚。(心陰虚)

手足汗 → 脾胃の裏熱。

油汗

湿熱。 冷たい汗 → 脾胃の虚寒

わきの下 → 癆肝胆の湿熱。

体半分 → かく方だけ気血の虚。

半身マヒの赤ちやう。 シューゼン。

—大便— ①腸 ②脾胃 ③腎 ^{腎は二便をまよひる。(真武湯)} ④津液(下痢,便秘)

形 { サラサラ 色が白っぽい → 寒。脾胃の寒。
 しょう油のような色 → 熱。
 ネットリ 熱が盛ん。

かたい → 熱が盛んで、津液の不足。
 血虚, 陰虚からの津液の不足。

血便 → 鮮紅色 - 熱。
 色がうすい - 脾虚。
 赤黒い - 瘀血

ぬん液, うみ ^{をまよひる} → 熱証。

カンコク(下痢) → 脾胃の陽気の虚。
 不消化便 " の寒。

色.

うすい黄 → 虚熱.

こい黄 → 実熱.

黒 → 瘀血.

(陽向上部の出血の時黒く赤)
区別也!

白 → オウタン. 虚.

緑 → 木ノ土.

赤 → 熱

回数.

多い. → 脾虚.

におい.

なま臭い → ガーミン様
寒証.

強い → 熱証.

すばい → 食滞.

なし → 寒証.

ホウショウ
↓
ジニン丸

便秘 —— 腸の乾燥。(基本) マシン丸

硬く大きく。
自覚他覚的腹部 → 胃の実熱。
ホウマン 承気湯類

乾燥して出てくる → 津液不足。 人考ト。
血虚, 陰虚。 フシクニヤト。
ハヤト 六味丸

手足冷えて出ない → 寒証。 人考ト。
あたにかいもの好き。 フシクニヤト。

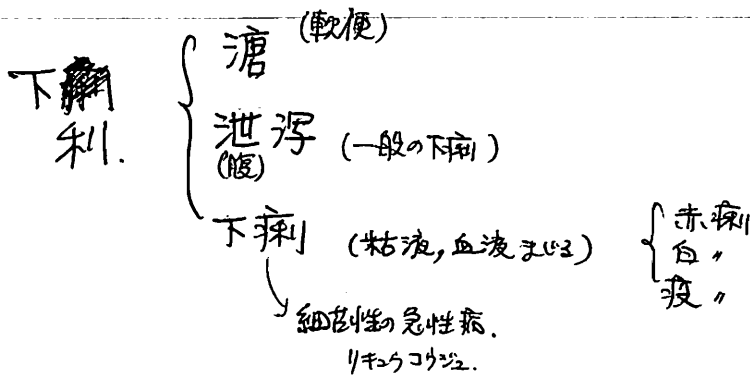
腹, ぶ, ショウホウ

兔糞状 → 脾虚。 加味道。 リンア
ホチウエンキ
小舞子。

心配事で → 気滞。 サンの教。
ロフマト。

腹満 —— 虚の時他覚的になし。

便秘 —— 中気の虚。
X下劑 リミカが出ない。 補中益氣ト。
(マシン丸)



リキウコウジュ → 熱証. カッコシ, オウゴン, オウレン.
 (小便に赤子) 玉苧散で止まらない下痢に.

出方 水シヤ性 → 湿, 痰飲, 陽氣の虚.
 玉苧散 人參ト.

肛門に熱感
 ↳ 熱証の下痢.

完穀 カンコウ下痢. → 不消化下痢.
 陽氣の虚, 冷え.

下痢 先硬後溏. → 下痢
 脾虚 + 湿.

明け方 → ケイイ下痢
 ココウシヤ 腎虚.
 陽ケツカク. ~~丸~~
 真武湯, 附子理中ト.

<区別>

寒熱 { シヤクネツ感
リキョウコウシユ.

虚实 { 排便脱力感.

矢禁 → 虚.

ただし高熱の時は実.

脱肛 → 中気の下陷.

はなはだしい陽虚でも出る.

1/20

(16回)

小便

- ① 腎は水を主とせしむ
- ② 膀胱は津液を蔵す.
- ③ 脾胃は湿を好む.
- ④ 肺は津液を輸布する.
- ⑤ 体内の津液の異常.
- ⑥ 膀胱の氣化作用. 五苓散の桂枝.
↓
異常 → 排泄異常.

{ コンダク 熱証.

{ トウメイ 寒証 (陽気の虚, 氣虚)

血尿 → 熱証. (膀胱, 腎)

— 色 —

少し黄色 — 正常.

黄い " — 熱証.

うろ " — 虚熱

こい " — 実熱
(味)

黄表の " — 虚熱

白い — 寒証. 真赤 — 血熱
(白濁)

シオウゴ色 — 腎に病あり.

— 出方 —

出ない
出す時

全然でない — 下腹部チリマン感と共に.
下焦の熱が盛ん.

手足が冷える — 陽虚, 気虚.

一回の量が少ない.) ① 熱が盛ん.
回数が多い) ② 津液不足.

③ 津液不足.

③ 膀胱が死, 未腐じ
水滯

出ないけれど出る時 — 熱, 湿熱. ノコタンシヤロニ
五淋
チロリン

量が多い — 陽気の虚. 八味, 甘草, 人參

回数が多い — 湿熱.

回数少ない
色が濃い

回数が多い — 虚寒.
透明

水を多量に飲む. — ショウガ.
尿量が多い 熱を主体にして証して出る.

痰 飲
 咳る 咳る
 (種) (伏苓)

辰ぼう症 — 腎陽の虚.
 シレカシ 脾肺の気虚.

腎象尿 — 腎の虚寒
 尿

サン セン
 痰涎 脾象
 (ヨダレ, カタン, 分泌物.)

① 出方. — { 青 — 寒
 黄 — 熱
 かたまり, ねじり. — 熱
 サラサラ — 寒
 アワ — 凡
 水泡
 のう, 血液 — 熱

② 色. 黄 — 熱
 白透明 — 寒, 湿, 痰飲.
 灰色 — 寒

③ 量 多 — 実 or. 痰飲, 湿
 少 — 虚 or. 燥.

口中のツバ — { 脾胃
 腎 人參ト.

出血

① 出方 薄 — 虚,
 濃 — 熱.
 赤 — 熱.
 紫 — 熱.
 タンに 糸状の血 — 肺熱
 吐いたとき血 — 肝熱

食や物吐血 ——— 胃 (汗) (じつじつ吐物にも虚がある.)

血の中に痰 ——— 肺.

- ② 色. {
- うすい色 ---- 虚.
 - 鮮赤色 ---- 熱奥.
 - 紫色 さい ——— 氣のうせかり盛ん.
 - " 紫黒 ——— 氣虚
 - 黒色 ——— 瘀血, 寒.

悪寒

	(ホッ作)	(溢める)	(場所)
{ 外傷 ...	突発的	ハイケンシ,	陽部
{ 内傷 ...	定期的	ハイケン,	陰部

• 外寒, 太陽病. { 表実 マチ

少陽病

陽明病 — 白虎加人参湯.

• 内傷 冷え, 冷え症.
自覚的 マンセイ → 陽虚. 瘀血.
血虚.

場所.

手足 — 脾胃, 脾陽の虚.

→ 瀕陽の集まる所 — 心腎の陽虚 四逆下.

血虚 (トウフシヤクカゴシユコシヤクノチ)

表虚 (フシ, ガイシ)

頭が冷える。 ——— 表陽虚。 (マウツグシヤシントウ)
 脈
 ↓
 腎

背が冷える。 ——— 背にある臓器を考ふる。
 太陽膀胱經。 肺, 胃 etc. の陽虚, 水。
 ↓
 小骨老ト 人脊ト. フツクハウシ, 五ツゴト.

下焦
 腰 ← 腎の陽虚. 腰その他の寒。
 ↓
 腎の使係手。
 瘀血 (下腹部)
 血虚. (トウシヤク教)

腹部 ——— 胸が冷たい (心, 肺)
 上腹部 (脾胃) 寒
 下腹部 (肝胆, 血虚)
 ↳ トウキシヤクカ 五ツゴシヨウキョウ.

熱

① 時間

朝早く — 気虚

午後 — 湿熱, 陰虚, 血虚.

夕方 — 陽明に病あり.

ニッホシヨ マキョーヨリカント.

夜 — 瘀血, 陰虚, 血虚, 食滯.

往來寒熱 — 逆 (マツリア)

② 出方

往来寒熱 —— 少陽病., 逆(23119)

胆,

悪寒發熱 —— 外感の表証.

共存

發熱中心 —— 陽盛

悪寒中心 —— 陰盛

煩熱 —— 裏熱.

高熱 —— 裏の裏熱
(ツネツ) (真熱)

心才熱 —— 裏の熱
(ツネツとツネツを
しやがる)

③ 場所

手足 —— 傷寒-陽明
慢-胃

顔 —— 裏, 胃, 心.

足のうらだけ —— 胃, 腎熱

{ 目ゲン --- 目カラクラ (肝)
 又ウン --- 頭カラクラ (腎)

めまい
(眩暈)

原因.
肝, 腎, 胆, 熱.

{ はげしくおこる --- 実証
 軽く " --- 虚証

のほせ, めまい同時 --- 裏熱の上逆

目ゲン主体
 筋肉のシオン --- 血虚 (肝)

胃内停水に同時
 のめまい --- 飲, 胃, 水.

口唇の色が白く
 つかれ易い --- 脾胃の気虚.

動悸 --- { 軽 - 水
 重 - 心虚

頭にかーッとする --- 肝気上逆.

頭がカラにまこ
 めまい --- 腎陰の虚.

口渴

原因.

熱, 津液不足, 痰飲湿の停滞.

多く飲み. — 熱.

全然飲まず かきまじ — 寒, 湿, 痰飲.

冷めたものを多く飲む. — 熱証. (木舌)

温かいものを飲む. — 寒証.

口渴好むは量も 飲まじ — 水毒, 瘀血, 陰虚.
(口乾) 湿熱

瘀血, 陰虚, 湿, 痰飲.

食欲

胃, 脾

慢性食欲不足 — 脾胃の虚

異常の進 — 胃熱.

はかり, 少く食ふと — 脾胃の虚.
すぐにはおれに食ひ, 排せつする
かかぬける

あまりへらさない. — 胃実.

食後に倦かたがる。 — 陽虚

” 重い — 脾胃の湿。

味

口苦 ———— 肝胆の熱

口おぼい ———— 肝の熱 が 食滞。

辛くなる ———— 肺熱

塩辛くなる ———— 腎熱。

甘い ———— 脾胃の湿。(熱)

ネバシ ———— 少陽病, 湿熱。

はいぐ
(サササ) ———— 湿, 痰飲, 虚。

2/3

(17回) 神経症.

- ① 怒 喜 思 憂 驚 (五行)
- ② 心は神気を藏す. \rightarrow 血の変動
2次的
- ③ 肝, 脾胃 \rightarrow 疾病の発生率が高い.
 \downarrow
気うつを起し易い
(肺, 脾胃, 肝)

{ 精神病 \rightarrow 心の病
{ 神経病 \rightarrow 多種多様.

健忘病

- ① 心虚
- ② 腎陰虚
- ③ 心腎不交 (生理的な関係がくずれる)
- ④ 脾虚 (キト, 八味丸, 六味丸)
- ⑤ 瘀血

セイ 仰
怔 忡 (むなむな)

- ① 心の血虚
- ② 陰気の虚か
- ③ 煩燥 (鬼熱)
- ④ ~~うつ症状~~

うつ症状

- ① 気うつ
- ② 肝の気うつ

狂

- ① 瘀血
- ② 血熱

驚 (おくびょう) 神経が細い

- ① 心虚

おどろき易い (おくびょう)

- ① 心腎の虚

決断力のない おくびょう

- ① 胆虚

不眠. (ランランヒ目かきさえる)

↳ 陽虚.

① 心

② 胆

③ 交イ論 ・ 昼 → 陽気 ・ 夜 → 陰気
(三ノヲ写心, 黄連解毒)

(ウツラウツラ)

↳ 陰虚.

心血虚. → ホドキ場い, 神慮, 神経細い
+
熱 → 心腎不交 (杓レンアキウ)

心ヒ虚.

腎肝の陰虚.

• 寝るきの食事.

• 手足の冷え

• " ほてり

• 穴 (中耳炎, ちゆう...) } 小見.

• 腹痛

神経以外の不眠.

多いので注意

目がよくさめる。

心, 胆

目が朝早くさめる

気虚.

なかなか起きられない。(シ眠)

陽虚 陰虚 盛

↓

陽虚

いねむり出。
ケントイ感。
疲れ易い。
冷え。
脱力感。
~~夢をよく見る。~~

↓

湿痰 (痰飲)

・体が重い (リョウケイジュウカント)
・利水剤

夢をよく見る。

肝, 腎の陰虚。

陰より陽がかたまって盛んになった時。

病後(熱性疾患)の不眠

余熱が残っている → オウケ

胆の方に異常 → ウラント類。

//

のシ眠(ねてばかり)

熱感がある → 余熱 (小柴胡, 不レンゲドク)

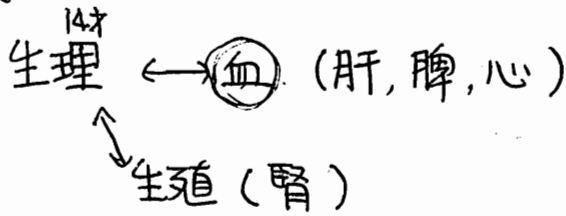
なし → 正気の不足 (邪気と戦った為)

調理要

耳がうる → コウリ散 + 小柴胡。

補剤が多い。

婦人



任脉
↓
妊

14才で小任脉が満ちる。

月経.

早め々の

..... 熱証

遅い "

..... 瘀血, 血虚, 虚寒証

不定期

..... 瘀血, 気うつ, 脾虚, 心虚

量

多い

..... 血熱, 気虚

少ない

..... 血虚, 瘀血, 痰飲.

色.

鮮赤色

..... 熱証

うすい

..... 血虚, 気虚, 痰飲.

紫色

..... 瘀血, 気滞, 熱

生理中だけ薬を変える。(カミイカン) 1日からの経過。

痛み方 (下腹部)

前半にある (張る) ----- 瘀血. 気の^{ほろほろ}じこり, 寒証

後半にある (張らない) ----- 血虚, 気虚.

止まる (閉止)

顔色 ----- 血虚
血色がなくなる

口唇がくちやう ----- 瘀血
あざはた

冷之症 ----- 寒
赤白い頬

便秘, 熱感 ----- 津液不足, 陰虚.
ほかに赤味(赤い)

太, ていて体が重い ----- 痰飲 (防己黄耆)

精神的 ----- 気うつ型.
いやな事 (柴胡桂枝)

出血.

崩おち 下くだ ----- 血崩
おち下

色いろ 薄い, サラサラ. ----- 気虚
痕れ易い

鮮赤色あざ 量多あまい. ----- ~~気うつ~~ 血虚.
手にほてる. 頬がほてり赤い.

紫色 ぬばぬば 湿熱
臭い 強い

紫色, 血塊 瘀血.

十
うつ症 気うつ

臭い.
強い 熱.

弱い.
なまぐさい 寒 (X肺)

帯下 (おりもの)

色 白帯下 虚, 寒, 脾虚, 肝気うつ.
(加味道)

黄 " 湿熱.

青 " 肝湿熱.

赤白混 湿熱, 肝湿熱
(菴胆瑪肝)

サラサラ 寒, 虚, 痰飲, 湿.

ネバネバ 熱臭, 湿熱.

産後熱 小柴胡+四物ト.

妊娠中の凶邪 リクゴウト (Xマオウ)

魚腥 (補血)

↓
四物ト加

臭い 強い 熱

弱い 寒
赤白痢

産後.

大量の気血を使う. 気血の虚.

才口が完全につきまいる 瘀血.

子供の心配 気うつ (肝)

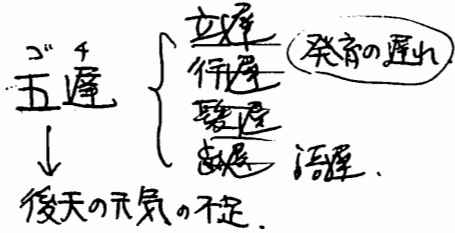
{ 四物湯
四君子
気うつ薬

おっぱい 血変じて 乳化する.

四物ト, 四君子ト +
加味道 (気うつ)

↓
カニバハと出ず。
(皮病はよくある)

小兒 (春) → 煩燥 (正毒)



疳 → 乳幼児の消化器系 (脾胃)

ひきつけ (驚風) → 肝. 痾
↓
内風

顔色 → テンイ的に出る.

動き. — 泣きかどえ急に大きくなる …… 腹痛.

高く.
かんまんて低い …… 病が重い
泣き声

泣き声がかたくなる …… のこ, 痰飲.

泣きなくなる …… 危険.

急に体を動かしを胸, 腹上 …… その場の痛み.
も, こいこ …… はんそう.

手足もちぢめてしびる …… 悪寒.

よく重いかす …… 煩燥

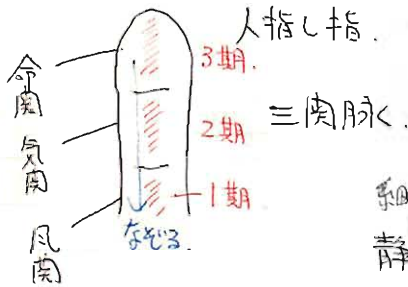
泣き声から足を振る …… 頭痛.

ぬがえりをよくつ …… 体表に痛み.
(煩燥)

食べたりのんたりに泣く …… D, 下のこ.
炎症, 痛み.

夜なき …… 驚風

目をあけてねる 脾虚.



細絡, 赤味なし.
静脈の色を見る.



浮 . . . 表
深 . . . 裏.

色.
鮮赤色 . . . 表に病.
淡い色 . . . 虚寒証.
淡い青 . . . 虚, 驚風.
淡い紫 . . . 虚熱.
青紫 . . . 肝熱, 食滞, 痰飲.
黒ずみ . . . 危重.

脈

帖
胃

2/17 切診.
(18回) 脈

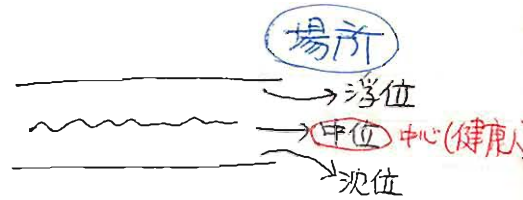
祖脈

状象

{ 浮 — 表
沈 — 裏

1呼吸
4回 { 遲 — 寒
數 — 熱.

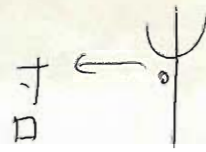
{ 緊 — 実
緩 — 虚



平人脈
中位.

病脈
浮位.





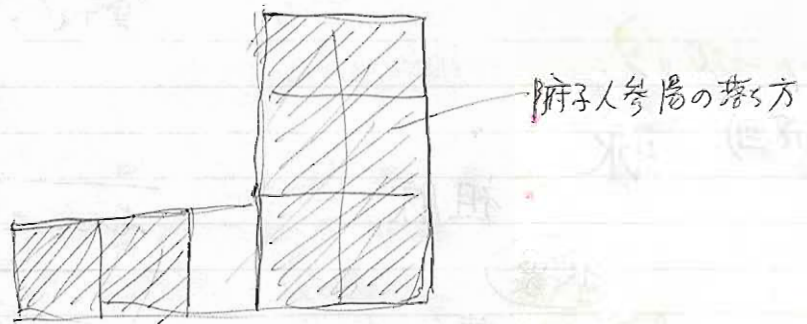
六部定位の脈

	陽 ① 浮位	左 陰 ② 沈位	寸	右 ③ 浮位	④ 沈位
上焦	小腸	心	寸	大腸	肺
中焦	胆	肝	関	胃	脾
下焦	膀胱	(左) 腎	尺	(右) 腎 (命門)	

患者の手

おこえている → 六味丸

おこっている → 八味丸



蓋然性

傷寒 → 脈 雜病 → 腹(舌)

9 藥物 (本草学)

四氣 寒 (伏, 微)

涼

(平)

溫

熱

五味 酸 收_水, 澀_水

苦 泄, 燥, 堅

甘 補, 緩, 和

辛 行, 散, 潤

鹹 下, 軟

(淡) ... 味なし. 滲, 利_水

升
降
浮
沈

辛甘 + 熱 ... 升浮

他 + 寒 ... 降沈

花葉, 輕 → 升浮

子實, 重 → 降沈

例外) センブリ花のみ降沈.

コ又キ → ふるい

シュウチ

酒 → 升
毒

鹹 → 降

本来の意味

気 (=オイ)

味 (アジ)

↳ { 有 → 熱 → 升浮
 無

↳ { 有 → 降沈
 無

帰経 (引経報使) 張元素

どの薬物はどの臓器に入るか。

修治 (炮制)

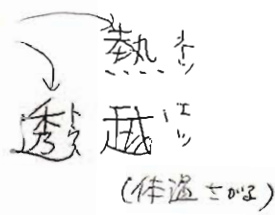
加工法 (調剤をのぞく)

- 目的
1. キョウサツ物, 非薬用物を除去する.
 2. 毒性, 副作用を軽減, 除去, 低下させる.
 3. 作用を緩和したり, 増強したりする.
 4. 調剤, 製剤, 服用, 貯蔵をし易くする.

黄連解毒

↓下して治す。
小便近くまで治る。

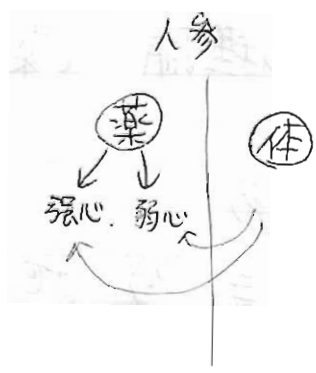
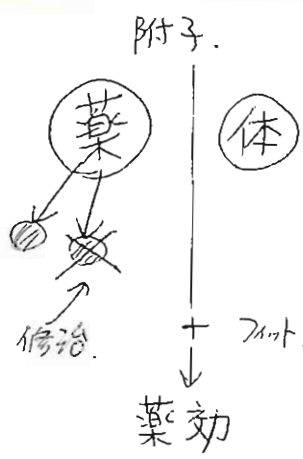
汗



麻黄

- ① 内熱 → 汗が出る → 麻黄と合わせると汗が少なくなる。
- ② 体表が弱すぎて鼻血が出る → 紅汗 (そうまおうを治す)

3/3 (19回)



七物降下湯 ⇒ 低圧 ⇒ 低い方が高い人に効く

10

方劑 (処方)

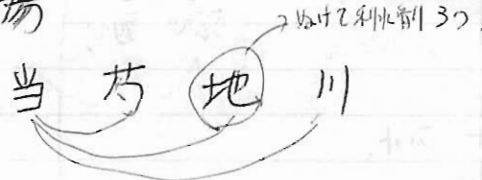
七情

- ① 単行 ... 1つで使う。単独で働く。甘草湯, 独参湯
- ② 相須 ... 作用の同様なものを組合せて増加させる。
- ③ 相使 ... 作用の異なるものを組合せてその協力作用を目的。
防己黄耆 芍薬甘草
- ④ 相畏 ... 他の一方の毒性, 薬効を軽減させる。
類生薬
- ⑤ 相惡 ... 一方の薬物の薬理作用をケンセイする (配合禁忌)
生薬, 毒ゴキ
- ⑥ 相殺 ... 中毒を起こす薬物の毒性を消す。
- ⑦ 相反 ... 組み合わせると新たな作用が出てくる。
ウズ半夏 カンツ, 半夏 (絶対便, 44)

半斤半両カイ → 止血 (守りながら) ↔ 三黄瀉心 (攻撃的)

薬対の理論 (薬が二味の組み合わせ)

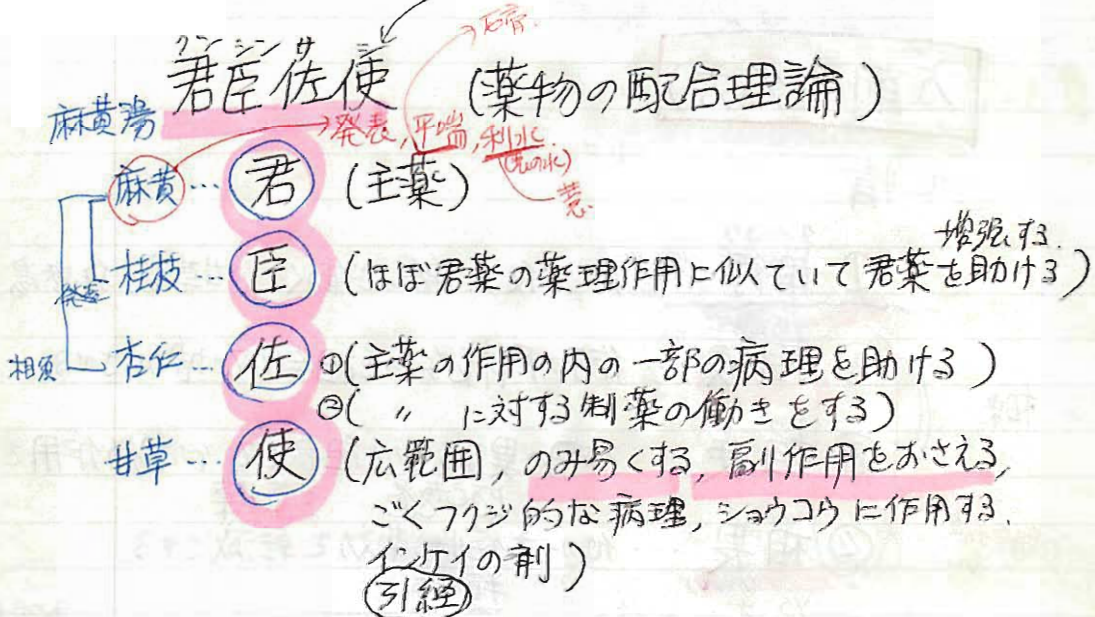
四物湯



桂芍



麻黄湯 君臣佐使 (薬物の配合理論)



劑形

湯

→ 吸収早い, 作用強い (急性病)

飲

→ 飲ませる時 冷服させる

丸

→ 吸収カンマン, (慢性病)

- 加熱すると分解する (シヤコウ) 理中丸
- 毒性の強いもの (カンマンに吸収)
- タイムに便利.
- 瘀血, シコリ, 水がひびく強く停滞. (いんげんは湯で煮る) 気も溶けてしまふせあり.

散

→ 中傷, 脾胃の病に適している (内外)

膏

→ 生薬を油で抽出 (内外)

→ 濃縮エキス + 氷砂糖 + ハチミツ ⇒ 長期に服用させる補劑.

丹

→ 道教系の医学

- 湯
 - 散
 - 丸
- ・ 金匱物業が主薬
・ 化学変化させている

先明丹.

西曲


→ 薬用酒

→ 温補の劑. 気血 (七証)

注) 陰虚の人は不適

① 薬露 ——— 蒸留して作ったもの (薬毒うすい)

② 錠剤 ——— 散を粘着剤でかためて作る。
内服 → すりつぶして飲む
外用 → " 使う。

③ 条剤 ——— こりを作って薬物の粉末 or シロをひたして
もんで使う。 痔。 

④ 線剤 ——— こりを使わず、絹などの糸を使う。

⑤ 洗薬剤 ——— 洗薬剤。 外治。

⑥ くん剤 ——— くんずる。
水くん... 蒸じた液に患部をあてる
火くん... 煙にあてる。


⑦ 導薬 ——— ミッドウセン。
坐薬の事。

⑧ 坐薬 ——— チツ坐薬のことしか言わない。

量 (服用量)

1. 品種によって変える.

軽いもの (花, 毛, 葉) は少なめに
重いもの (鉱物, 貝類) は多く

2. 薬の性質による

味のうすいものは多めに.
有毒, 辛いものは少なめに

3. 配合方法.

くすり薬は多めに
その他は少なめに

4. 剤形によるもの

~~湯液~~ は多めに
丸, 散 は少なめに

5. 病気の性質

軽 (慢) ... 少なめに
重 (急) ... 多めに

6. 体質

虚弱 ... 少なめ
強人 ... 多めに

7. 年齢

小児, 老人 ---- 少なめ
青年 ---- 多め.

8. 季節.

夏の熱, 冬の寒薬 は少なめ
その逆は 多めに

9. ~~治法~~ 地方
カンキョウ.

寒い地方 → 暖薬も多めに.

飲み方

1. 時間

補剤 (食前, 空腹時)

その他は食後

泻下剤, 駆虫薬

夜間ホッパ (ぬる茶)

病 → 上焦 (食後) 下焦 (食前)

2. 方法.

湯剤 → 温服 (吐き止 清熱解毒 は冷服)

吐気 → 少量ずつ 冷服.

→ 9.159 F 鏡

↑ ショウブ → 酒 } で飲め.
↓ 4ンコウ → 塩水

3. 飲食禁忌.

服薬中は生, 冷, 味のこいもの, なまぐさいもの, 不消化物, 辛シン料はさける.

熱証 — 油, こい味はさける.

水毒 — 生もの, 冷たいもの, 果物をさける.

皮病 — 辛シン料はさける.

七方 (処方の分類)

- (大方 病性の強い時 おさえる。 (大承気))
- (小方 強くない時 あまり強くない薬で おさえる。 (小承気))
- (緩方 ゆっくり治す。 (理中丸) ^{で使う時} { 量を増やす. / 合剤とする } (四君子湯))
- (急方 いそいで治す。 (傷寒論) (人参湯) (四逆湯))
- (奇方 病理が 1 つのもの)
- (偶方 " 2 ")

複方 “ 3つ以上のもの (五積散)

< 医方集解 >

1. 補養 { 気 四君子
血 四物
陽
陰 六味

2. 發表 桂麻 }
3. 涌吐 } (汗吐下)
4. 攻下 承

5. 表裏双解 元素③+④. ホウフク通聖. 五積. 意義.

6. 和解劑. 柴胡劑, 加味道. 半夏瀉心, 黄連卜. 元素の意味. 意義.

7. 理気 { 補気 気逆
気滯 気カク }
8. 理血 { 補血 } (気, 血)

驅瘀血 { トウニン. コウカ. } ゲンツウ
 { 四物 } 元戎

9. 六因 10. 祛風 (祛麻) 11. 祛寒 (祛) 12. 清暑 (祛) 13. 利濕 (祛) 14. 消燥 (祛) 15. 浮火 (祛連解毒)

15. 除痰 } (水)

16. 消導 (食毒)

17. 收三渣 (收れん)

18. 殺虫.

19. 眼目.

20. 癰瘍 (おびき)

21. 婦人

1962年10月10日
外天
1000

1962年10月10日
外天
1000

(10) 1000

(100) 1000

(1000) 1000

1000

1000

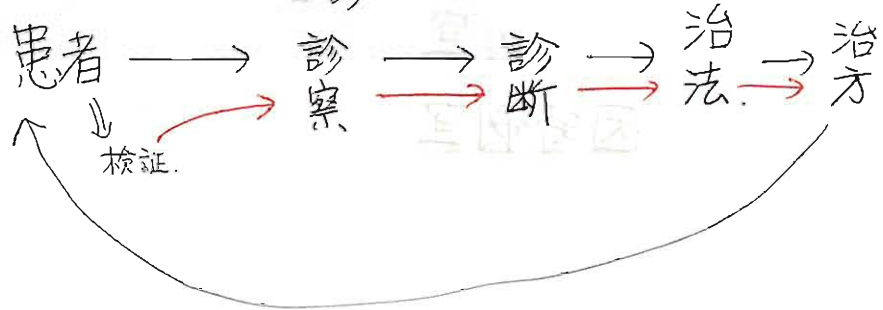
1000

1000

3/17
(20回)

治則

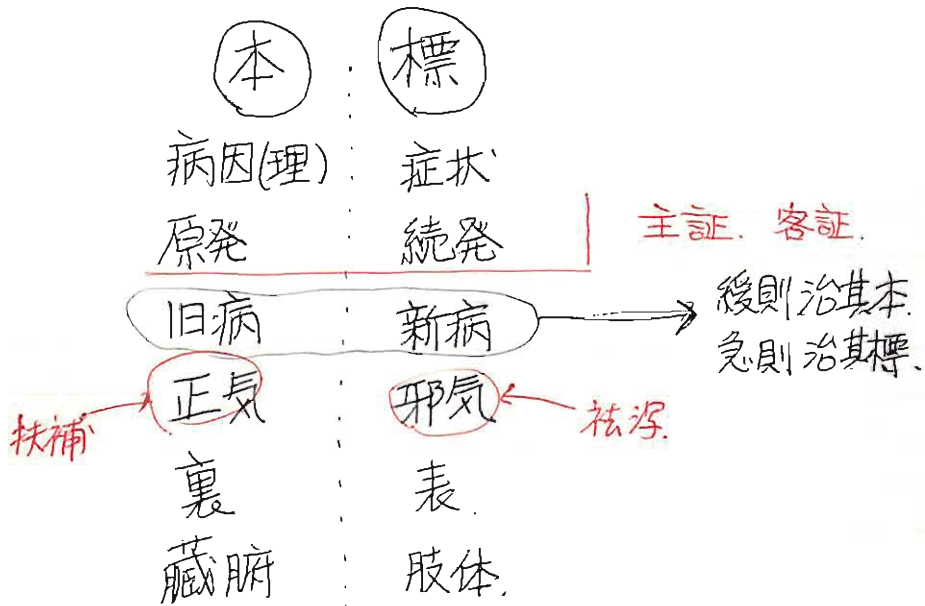
確同、用、切。
四診



2度目ほど病態カードはでいいのに。

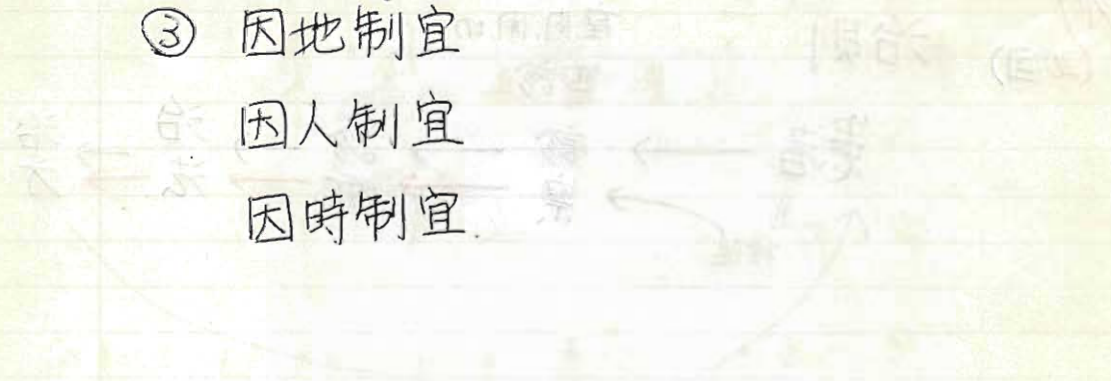
~~X~~ 方証相對.

- ① 治未病. 必要以外の薬は飲ませるな。
- ② 治病 必求於本.



③ 因地制宜
 因人制宜
 因時制宜

基礎



快... X

本 本

本... (野) 國...
 本... 本...
 本... 本...
 本... 本...
 本... 本...

本... 本...
 本... 本...

本... 本...